

(様式第10)

本病経公発第 4 号

令和 4 年 10 月 5 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 日本大学
理事長 東郷眞理子(林眞理子)

日本大学医学部附属板橋病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和3年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒102-8275 東京都千代田区九段南四丁目8番24号(日本大学本部)
氏名	学校法人 日本大学 理事長 東郷眞理子(林眞理子)

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

日本大学医学部附属板橋病院

3 所在の場所

〒173-8610 東京都板橋区大谷口上町30番1号
電話(03)3972-8111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="checkbox"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科				有			
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1呼吸器内科		2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科		4腎臓内科
	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	<input type="radio"/>			11リウマチ科
診療実績							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合

②「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名」欄において、標榜していない診療科がどの科目、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科		12放射線科
○	13放射線診断科	○	14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							
歯科口腔外科として届出を行い、医療を提供している。							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	腎臓・高血圧内科	2	糖尿病・代謝内科	3	消化器・肝臓内科	4	腫瘍内科	5	脳神経内科
6	心療内科	7	新生児内科	8	乳腺内分泌外科	9	形成外科	10	リハビリテーション科
11	頭頸部外科	12	疼痛緩和外科	13	臨床検査科	14	病理診断科	15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
----	-----	----	----	----	----

43	-	12	-	967	1022	(単位:床)
----	---	----	---	-----	------	--------

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数	
医師	433	37.9	470.9	看護補助者	5	診療エックス線技師	0	
歯科医師	11	4.8	15.8	理学療法士	17	臨床検査 臨床検査技師	83	
薬剤師	73	0.2	73.2	作業療法士	3		衛生検査技師	0
保健師	73	0	73	視能訓練士	9		その他	0
助産師	61	0	61	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0	
看護師	918	0	918	臨床工学士	34	医療社会事業従事者	0	
准看護師	1	0	1	栄養士	2	その他の技術員	9	
歯科衛生士	4	0	4	歯科技工士	0	事務職員	65	
管理栄養士	8	0	8	診療放射線技師	69	その他の職員	17	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	29	眼科専門医	11
外科専門医	12	耳鼻咽喉科専門医	11
精神科専門医	8.4	放射線科専門医	8
小児科専門医	35	脳神経外科専門医	16
皮膚科専門医	8	整形外科専門医	18
泌尿器科専門医	8	麻酔科専門医	39
産婦人科専門医	14	救急科専門医	8
		合計	225.4

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (高橋悟) 任年月日 令和 4 年 4 月 1 日

病院長: 令和3年4月1日～令和4年3月31日
副病院長(病院パフォーマンス担当): 令和2年11月1日～令和3年3月31日
副病院長(診療・教育担当): 平成26年11月1日～平成31年3月31日

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	611.8 人	3.2 人	615 人
1日当たり平均外来患者数	1787.1 人	53 人	1840.1 人

1日当たり平均調剤数	入院46 外来1163	剤
必要医師数	165.83	人
必要歯科医師数	7	人
必要薬剤師数	370	人
必要(准)看護師数	21	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	833.233 m ²	鉄筋コンクリート造	病床数	45 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 84.11 m ² [移動式の場合] 台数 15 台		病床数	5 床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積 21.22 m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	416.34 m ²	鉄筋コンクリート造	(主な設備)	生化学自動分析機 LABOSPECT008 α, H7180, 迅速マルチ自動分析 DemensionEXL2000		
細菌検査室	107.44 m ²	鉄筋コンクリート造	(主な設備)	自動細菌同定感受性装置 ライサスS4, 自動血液培養装置 BACTEC-FX, BDマックス(リアルタイムART-PCR), サーマフィッシャー-Q55DX		
病理検査室	135.48 m ²	鉄筋コンクリート造	(主な設備)	自動固定包装装置, 自動染色装置, クリオスタット, パーチャルスライド機, 安全キャビネット, 顕微鏡		
病理解剖室	82.73 m ²	鉄筋コンクリート造	(主な設備)	解剖台3台, (L型昇降式1第含), 局所排気システム, 写真撮影装置		
研究室	27.28 m ²	鉄筋コンクリート造	(主な設備)	パソコン, 顕微鏡, 電子カルテ		
講義室	194.27 m ²	鉄筋コンクリート造	室数	4 室	収容定員	125 人
図書室	1015.1 m ²	鉄筋コンクリート造	室数	1 室	蔵書数	約200000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	90.9 %	逆紹介率	64.8 %
算出根拠	A: 紹介患者の数		24,545 人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		20,568 人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		4,302 人
	D: 初診の患者の数		31,703 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長	選定理由	利害	委員の要件
----	----	-----	------	----	-------

氏名	所属	(○を付す)	経歴等	関係	該当状況
寺崎 仁	元東京女子医科大学医療安全科教授 医師	○	大学教授として医療安全に関する豊富な実務経験と識見を持ち合わせているため	無	1
各務武希	光和総合法律事務所 弁護士		法曹界での豊富な実績を有しており、法律に関する専門知識とコンプライアンス分野の識見を持ち合わせているため	無	1
柴田誠治	板橋区名士 医療を受ける者代表		医療を受ける者としての客観性と社会性を持ち合わせているため	無	2
庄司義男	元関東信越厚生局医療課長		豊富な業務経験を踏まえた、医療に係る安全管理に関する識見を持ち合わせているため	有	3
西成田進	元日本大学医学部附属板橋病院医療安全管理室兼任医師		総合病院病院長の経験と本病院医療安全管理室兼任医師の業務経験を持ち合わせているため	有	3

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
当病院のホームページ上に公表している。 (https://www.itabashi.med.nihon-u.ac.jp/outline/disclosure)	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	修正型電気けいれん療法	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 手術室において全身麻酔下で筋弛緩を確保した状態で電気けいれん療法を行う。難治性うつ病および統合失調症が対象。			
医療技術名	移植後長期フォローアップ外来	取扱患者数	25
当該医療技術の概要 移植後には、感染症やGVHDだけでなく、時間が経ってから身体のかなんな臓器から発症する「晩期合併症」が起こることがある。これらの予防や、早い段階で適切な治療やケアを行うために、移植が終わった後も、定期的に検査や診察、生活指導などを受けていただくこと。			
医療技術名	体感部および頭部定位照射	取扱患者数	36
当該医療技術の概要 肺腫瘍、肝細胞癌および脳腫瘍に対して行うピンポイントの根治的放射線治療			
医療技術名	強度変調放射線治療	取扱患者数	136
当該医療技術の概要 前立腺癌、子宮頸癌、肺癌、頭頸部癌などにおいて局所制御の向上と有害事象軽減目的のための放射線治療。			
医療技術名	高線量率密封小線源療法	取扱患者数	23
当該医療技術の概要 子宮頸癌を主体に行う放射線治療。			
医療技術名	全身照射	取扱患者数	13
当該医療技術の概要 造血幹細胞移植においてレシピエントが造血幹細胞を拒絶しないように十分な免疫抑制をかける放射線による前処置。			
医療技術名	低線量率密封小線源治療	取扱患者数	17
当該医療技術の概要 限局性前立腺癌に対して1251(ヨード)線源を腰椎麻酔下に会陰から永久的に前立腺内に埋め込む治療。			
医療技術名	腹腔鏡下副腎摘除術	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 副腎良性腫瘍(原発性アルドステロン症、クッシング症候群などに対する低侵襲な術式である。 腹腔鏡下に副腎中心静脈を処理し、腫瘍の取り残しがないよう摘除する必要がある。			
医療技術名	腹腔鏡下副腎髓質腫瘍切除術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 褐色細胞種など副腎髓質腫瘍に対して腹腔鏡を用いて副腎摘除を行う術式である。 周術期の血圧管理が難しい疾患である。			
医療技術名	腹腔鏡下副腎悪性腫瘍手術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 副腎悪性腫瘍に対して腹腔鏡を用いて副腎摘除を行う低侵襲な術式である。			
医療技術名	腹腔鏡下根治的腎摘除術	取扱患者数	21
当該医療技術の概要 腎悪性腫瘍(主にT1b以上)に対する低侵襲な術式である。 腹腔鏡下に腎動静脈および尿管を処理し腎周囲脂肪をしっかりと付けて根治的に腎を摘除する必要がある。			

医療技術名	腹腔鏡下腎尿管全摘除術	取扱患者数	15
当該医療技術の概要 腎盂癌および尿管癌に対する低侵襲な術式である。 腹腔鏡下に腎動静脈を処理し、腎と尿管を骨盤内付近まで遊離する必要がある。			
医療技術名	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 膀胱癌に対して腹腔鏡を用いて膀胱全摘除を行う出血量が少なく低侵襲な術式である。			
医療技術名	腹腔鏡下仙骨腔固定術	取扱患者数	47
当該医療技術の概要 骨盤臓器脱に対して腹腔鏡を用いて腔断端を仙骨岬角にメッシュを持ちて固定する術式である。 メッシュと組織の縫合箇所が多く、難易度の高い手術である。			
医療技術名	ロボット支援腎悪性腫瘍手術(7cm以下)	取扱患者数	19
当該医療技術の概要 腎悪性腫瘍(主にT1a)に対する低侵襲な術式である。腹腔鏡下に腎動脈をクランプし、腫瘍を切除後、腎を縫合する必要がある。阻血時間が限りがあり、高度の縫合技術を要する。			
医療技術名	ロボット支援腎盂形成手術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 腎盂尿管移行部狭窄症に対してロボットを用い、腎盂尿管の再建を行う術式である。			
医療技術名	ロボット支援前立腺悪性腫瘍手術	取扱患者数	50
当該医療技術の概要 前立腺癌に対するロボットを用いた低侵襲な術式である。剥離・縫合操作が多く、高度の技術を要する。			
医療技術名	ロボット支援膀胱悪性腫瘍手術	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 膀胱癌に対してロボットを用いて膀胱全摘除を行う術式で、出血量が少なく低侵襲な手術である。			
医療技術名	乾癬患者の生物学的製剤による治療	取扱患者数	23
当該医療技術の概要 乾癬では皮疹が広範囲に及んだり、範囲が限局的でも爪など特定部位に症状がある場合はQoLが著しく障害される。また、関節症状が出現し不可逆的な変化をもたらすこともある。そのような乾癬患者に対し、生物学的製剤による治療を行った。			
医療技術名	慢性蕁麻疹患者のオマリズマブ(抗IgE抗体)による治療	取扱患者数	44
当該医療技術の概要 慢性蕁麻疹は掻痒感を伴う膨疹が繰り返し出現し、QoLが著しく障害される。抗ヒスタミン剤に代表される治療法に抵抗性の慢性蕁麻疹患者に対し、オマリズマブによる治療を行った。			
医療技術名	皮膚悪性腫瘍切除術	取扱患者数	87
当該医療技術の概要 悪性黒色腫、有棘細胞癌、基底細胞癌、ボーエン病、日光角化症、乳房外paget病や、その他希少な皮膚悪性腫瘍に対し皮膚悪性腫瘍切除術を行った。			
医療技術名	アトピー性皮膚炎患者の生物学的製剤による治療	取扱患者数	26
当該医療技術の概要 アトピー性皮膚炎は痒みのある湿疹性の皮疹を慢性的に繰り返し、重症な場合は著しくQOLを低下させる。通常の治療に抵抗性のある患者に対して、生物学的製剤による治療を行った。			
医療技術名	アトピー性皮膚炎患者のJAK阻害薬(内服薬)による治療	取扱患者数	13
当該医療技術の概要 アトピー性皮膚炎は痒みのある湿疹性の皮疹を慢性的に繰り返し、重症な場合は著しくQOLを低下させる。通常の治療に抵抗性のある患者に対して、JAK阻害薬の全身投与による治療を行った。			
医療技術名	膿疱性乾癬患者の生物学的製剤による治療	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 膿疱性乾癬は全身に膿疱を伴う紅斑が多発し、発熱や関節痛、倦怠感などを伴い、全身状態が悪化することもある疾患である。重症な患者に対して生物学的製剤による治療を行った。			

医療技術名	化膿性汗腺炎患者の生物学的製剤による治療	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 化膿性汗腺炎は腋窩、鼠径部、臀部などに炎症、膿瘍形成を慢性的に繰り返し、醜形や瘢痕、疼痛を伴い、著しくQOLを障害する。重症な患者に対して生物学的製剤による治療を行った。			
医療技術名	掌蹠膿疱症(掌蹠膿疱症性骨関節炎)患者の生物学的製剤による治療	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 掌蹠膿疱症は掌蹠に痒みのある紅斑、膿疱、角化が慢性的に持続し、胸肋関節炎等の関節痛を伴うこともある疾患である。通常の治療に抵抗性の重症な患者に対して生物学的製剤による治療を行った。			
医療技術名	術中神経モニタリング支援下、脳腫瘍摘出術	取扱患者数	32
当該医療技術の概要 脳の機能を温存しつつ摘出率を上げるために、術中神経モニタリングを行いながら最大限の腫瘍摘出を行う。			
医療技術名	5-Amino Levulinic Acid (5-ALA) による術中蛍光診断支援下、摘出術	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 悪性神経膠腫の摘出率を上げるために、腫瘍細胞に取り込まれる5-ALAを内服した状態で手術を行い、術中に蛍光法で腫瘍の位置を同定し、腫瘍を摘出する。			
医療技術名	MRIを基にした術中画像ナビゲーションシステム	取扱患者数	54
当該医療技術の概要 術中に、病変の解剖学的位置を同定することで、合併症を軽減しつつ、病変へのアプローチを容易にする。また最大限の腫瘍摘出を目指す目的で行う。必要な症例ではDTI(神経線維の可視化)を併用して安全な手術を目指す。			
医療技術名	覚醒下手術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 術中に覚醒させ、言語機能を評価しながら腫瘍を摘出することで、特に、言語機能を温存しつつ腫瘍の最大限の摘出を目指すために行う。			
医療技術名	MRIガイド下腫瘍生検術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 腫瘍が、基底核、視床、視床下部、脳幹などの重要構造物を有する深部に存在し、生検術を要する場合、定位脳手術の手法で合併症を最小限にして、腫瘍の摘出をめざす。			
医療技術名	carmustine脳内留置用剤	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 悪性神経膠腫に対して、可及的に腫瘍を摘出した後に、摘出空にCarmustine(ACNU)を留置することで、抗腫瘍効果を期待し、予後の改善をめざす。			
医療技術名	bevacizumab(アバスチン)の静脈内投与	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 bevacizumabは血管内皮細胞増殖因子vascular endothelial growth factor (VEGF) に対するモノクローナル抗体で、VEGFの働きを阻害することにより、血管新生を抑えたり腫瘍の増殖や転移を抑えたりする作用を持つ分子標的治療薬である。悪性神経膠腫の再発例に対して、外来にてbevacizumabによる化学療法を行い、抗腫瘍効果を期待し、予後の改善をめざす。			
医療技術名	交流電場腫瘍治療システムであるNovoTTF-100Aシステム	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 初発の悪性神経膠腫に対して、腫瘍治療電場Tumor Treating Fields (TTF) と呼ばれる低強度・中間周波数の交流電場を発生させる携帯可能な装置で交流電場が有糸分裂中期の核分裂停止を誘発し、がん細胞を死滅させることで予後の改善をめざす。			
医療技術名	小児もやもや病に対する血行再建術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 小児もやもや病に対する直接血行再建術および間接血行再建術を行い、脳梗塞および脳出血の予防をめざす。			
医療技術名	水頭症に対する神経内視鏡手術	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 神経内視鏡を用いて、第三脳室底開窓術、透明中隔開窓術をはじめ、シャント術に依存しない治療をめざす。			

医療技術名	脳出血、脳室内出血に対する神経内視鏡手術	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 神経内視鏡を用いて、脳出血、脳室内出血を低侵襲にて摘出することで機能予後の改善をめざす。			
医療技術名	脳室内腫瘍に対する神経内視鏡手術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 神経内視鏡を用いて、脳室内腫瘍を低侵襲にて摘出することで合併症を最小限にしつつ、腫瘍の摘出、および病理診断の確定をめざした治療をおこなう。			
医療技術名	急性期脳梗塞に対する静脈血栓溶解(rt-PA)療法	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 急性期脳梗塞に対して、発症からの時間及び画像所見などから適応を判断し、投与を行う。			
医療技術名	急性期脳梗塞に対する経皮的血栓回収療法	取扱患者数	25
当該医療技術の概要 脳主幹動脈閉塞による急性期脳梗塞に対して、再開通を目的とし24時間体制で施行している。			
医療技術名	脳血管内手術	取扱患者数	50
当該医療技術の概要 脳動脈瘤、頭蓋内外血管狭窄症、硬膜動静脈瘻、脳動静脈奇形、急性虚血性脳卒中などの脳血管疾患に対して主に行なっている。他にも脳腫瘍や慢性硬膜下血腫などの脳血管塞栓術も行う。			
医療技術名	パーキンソン病に対する脳深部刺激療法	取扱患者数	13
当該医療技術の概要 パーキンソン病に対する運動症状改善のため定位脳手術の手法により脳深部刺激電極を挿入し、完全埋設型刺激装置を植え込み慢性電気刺激を行う。			
医療技術名	不随意運動に対する脳深部刺激療法	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 本態性振戦などの不随意運動の改善のため定位脳手術の手法により脳深部刺激電極を挿入し、完全埋設型刺激装置を植え込み慢性電気刺激を行う。			
医療技術名	難治性疼痛に対する脊髄刺激療法	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 脳卒中後疼痛等の鎮痛薬が無効な難治性疼痛に対して、脊髄硬膜外刺激電極を挿入し、完全埋設型刺激装置を植え込み慢性電気刺激を行い除痛効果を得る。			
医療技術名	新生児に対する水頭症に対する管理	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 新生児科医師と密に連携を取り、診断・手術治療(PIカテーテル留置・貯留槽留置・シャント手術)ならびに術後全身管理をおこなう。			
医療技術名	脊髄髄膜瘤に対する修復術及び機能予後の改善を目指した集約的な加療	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 脊髄髄膜瘤修復術・水頭症に対する手術・管理をおこなうと同時に、関係各科と連携して膀胱直腸障害や運動機能障害、学習障害などの心理発達面での問題に対応していく。			
医療技術名	髄膜腫に対する腫瘍栄養血管塞栓術	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 開頭腫瘍摘出術の際に術中出血コントロールが難渋すると考えられる症例に対し、術前に腫瘍栄養血管をカテーテルを用いた脳血管内治療により塞栓する。			
医療技術名	ボトックス注射	取扱患者数	38
当該医療技術の概要 顔面痙攣、眼瞼痙攣、痙性斜頸、上肢・下肢痙縮等に対して、ボツリヌス毒素の筋肉内注射を行い、症状を改善させる。筋電図計を用いて施注部位を確実に同定して行う。			
医療技術名	破裂脳動脈瘤に対する脳動脈瘤クリッピング術	取扱患者数	14
当該医療技術の概要 破裂脳動脈瘤に対して急性期に再破裂予防目的に脳動脈瘤クリッピング術を施行する。クリッピング術またはコイル塞栓術の決定に関しては動脈瘤の部位、個々の症例の状態などに合わせて症例検討を行っている。			

医療技術名	破裂脳動脈瘤に対する脳動脈瘤コイル塞栓術	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 破裂脳動脈瘤に対して急性期に再破裂予防目的にコイル塞栓術を施行する。コイル塞栓術またはクリッピング術の決定に関しては脳動脈瘤の部位、個々の症例の状態などに合わせて症例検討を行っている。			
医療技術名	未破裂脳動脈瘤に対する脳動脈瘤クリッピング術	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 未破裂脳動脈瘤については年齢、リスク因子から脳動脈瘤の破裂率を考え治療を行う。脳動脈瘤の部位や形状、大きさから術前に症例検討を行い治療方針を決定する。未破裂脳動脈瘤に対しての脳動脈瘤クリッピング術は合併症を起こさないことが重要であり、インドシアニングリーンや超音波ドップラーで周囲の血管の確認を行う。また運動機能の合併症が懸念されるような症例については神経モニタリングを行いながら、クリッピングを行う。			
医療技術名	未破裂脳動脈瘤に対する脳動脈瘤コイル塞栓術	取扱患者数	15
当該医療技術の概要 未破裂脳動脈瘤については年齢、リスク因子から脳動脈瘤の破裂率を考え治療を行う。脳動脈瘤の部位や形状、大きさから術前に症例検討を行い治療方針を決定する。未破裂脳動脈瘤に対してのコイル塞栓術は合併症を起こさないことが重要であり、特に脳動脈瘤の母血管または周囲の穿通枝予防のため症例によりステントアシストなどを用いて行う。			
医療技術名	中枢神経原発悪性リンパ腫(PCNSL)に対するRMPV(リツキシマブ, メトトレキサート)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 中枢神経原発悪性リンパ腫に対して生検術にて診断が付き次第、すみやかに化学療法RMPV(リツキシマブ, メトトレキサート, プロカルバジン, ビンクリスチン)療法を行っている。			
医療技術名	小児悪性腫瘍に対する包括的な治療	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 小児脳腫瘍に対しては、安全かつ最大限の腫瘍摘出を目標とした手術を目指す。さらに術後も年齢・腫瘍局在・病理組織診断に応じて、脳神経外科、小児科(血液腫瘍科)、放射線治療科で協議をおこない個々の症例に対して手術・化学療法・放射線治療を組み合わせたオーダーメイド治療をおこなっている。また小児脳腫瘍多職種診療チームカンファレンスを開催することで、情報を共有するとともに、妊孕性を含む長期フォローアップを行っている。			
医療技術名	下垂体腫瘍に対する神経内視鏡を用いた経鼻的な手術	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 神経内視鏡を使用し、鼻腔を経由して開頭することなく下垂体腫瘍を摘出する。これにより低侵襲かつ安全な手術を行うことが可能になった。同部位は脳表から最も遠い部位の一つであり、従来の開頭手術では十分な腫瘍の摘出が困難であったが、本手技により全摘出を含む高い腫瘍摘出率を得られるようになった。また、本手技は下垂体腫瘍のみならず、前頭蓋底や斜台部の腫瘍も摘出することができる。			
医療技術名	重症頭部外傷に対する集約的加療	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 救急救命センターと協力し積極的に治療を行うとともに、脳保護に努めて取り組んでいる。			
医療技術名	小児脊髄脂肪腫に対する加療	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 術中神経モニタリングを併用して神経機能温存も考慮した、脊髄脂肪腫切除ならびに脊髄繫留解除手術をおこなっている。			
医療技術名	脳卒中後のリハビリテーション	取扱患者数	70
当該医療技術の概要 脳卒中発症後に、再発予防を行いつつ、社会復帰に向けた早期リハビリテーションを行っている。			
医療技術名	JCOG1016 初発退形成性神経膠腫に対する多施設共同研究による治療開発	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 初発退形成性神経膠腫に対する術後塩酸ニムスチン(ACNU)化学放射線療法先行再発時テモゾロミド化学療法をテモゾロミド化学放射線療法と比較するランダム化第Ⅲ相試験			
医療技術名	JCOG1303 星細胞腫瘍に対する多施設共同研究による治療開発	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 手術後残存腫瘍のあるWHO Grade II星細胞腫に対する放射線単独治療とテモゾロミド併用放射線療法を比較するランダム化第Ⅲ相試験			

医療技術名	JCOG1308 再発膠芽腫に対する多施設共同研究による治療開発	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 再発膠芽腫に対する用量強化テモゾロミド＋ベバシズマブ逐次併用療法をベバシズマブ療法と比較する多施設共同ランダム化第III相試験			
医療技術名	JCOG1703 初発膠芽腫に対する多施設共同研究による治療開発	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 初発膠芽腫に対する可及的摘出術＋カルムスチン脳内留置用剤留置＋テモゾロミド併用化学放射線療法と可及的摘出術＋テモゾロミド併用化学放射線療法のランダム化第III相試験			
医療技術名	JCOG1910 高齢者初発膠芽腫に対する多施設共同研究による治療開発	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 高齢者初発膠芽腫に対するテモゾロミド併用寡分割放射線治療に関するランダム化比較第III相試験			
医療技術名	JCCG MB19 小児脳腫瘍に対する多施設共同研究による治療開発	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 小児髄芽腫に対し新規リスク分類を導入したチオテパ／メルファラン大量化学療法併用放射線減量治療の有効性と安全性を検討する第II相試験			
医療技術名	JCCG EPN1501 小児脳腫瘍に対する多施設共同研究による治療開発	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 小児上衣腫に対する術後腫瘍残存程度と組織型によるリスク分類を用いた集学的治療第II相試験			
医療技術名	胸腔鏡補助下の胸郭変形に対する手術	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 漏斗胸や鳩胸などの胸郭変形に対する低侵襲治療として、内視鏡補助下に金属バーを挿入し形態を矯正する手術を行っている。			
医療技術名	がん遺伝子プロファイリング検査	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 固形がんを解析対象とした腫瘍組織の包括的ながんゲノムプロファイルを取得することで、患者さんのがん固有の遺伝子変異を解析し、正確な診断や抗がん剤の選定など治療方針決定に有用な情報を提供する。			
医療技術名	超早産児の赤血球の生化学的特徴の解明と遷延性重症黄疸感受性遺伝子の同定	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 赤血球特殊検査、網羅的遺伝子解析技術を用いて、超早産児の赤血球の特徴や遺伝学的背景の違いを明らかにし、遷延性重症黄疸の発症予測マーカーを開発するものである。			
医療技術名	先天性溶血性貧血の予後予測と早期医療介入を可能とする新規検査法の	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 生後2ヶ月以降も慢性溶血を認める症例に赤血球膜、赤血球酵素、ヘモグロビン異常の有無でスクリーニングし、最終的に先天性溶血性貧血関連遺伝子(63遺伝子)の解析を行うものである。			
医療技術名	新生児仮死に対する低体温療法	取扱患者数	9
当該医療技術の概要 重症新生児仮死に対し、水の還流するマットにより低体温にする療法で、生後6時間以内に開始し、72時間施行する。			
医療技術名	先天性サイトメガロウイルス感染症に対する抗ウイルス薬治療	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 頭蓋内病変、網膜脈絡膜炎、難聴など症候性の先天性サイトメガロウイルス感染症に対して6か月間バルガンシクロビルを内服する治療。			
医療技術名	新生児遷延性肺高血圧症に対する一酸化窒素吸入治療	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 新生児遷延性肺高血圧症の児に対し、人工呼吸管理のもと高濃度酸素と一酸化窒素を用いて換気することで肺血管抵抗を下げる治療。			
医療技術名	脊髄筋萎縮症に対するヌシネルセン髄腔内投与	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 脊髄筋萎縮症に対し、運動機能の安定化および改善目的に、ヌシネルセンを髄腔内投与する。初回後、2週、4週、9週、以降4か月間隔で投与する。			

医療技術名	多発性内分泌腫瘍症2型家系の遺伝子解析(遺伝学的検査)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 多発性内分泌腫瘍症2型(MEN2)の原因遺伝子RETに原因バリエントが検出されている罹患者の子ども3名の遺伝学的検査を実施した。未発症者については保険診療が適用されないため、高度の医療として行った。			
医療技術名	がんゲノム医療で検出されたMEN1生殖細胞系列バリエント検索	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 がんゲノム医療において多発性内分泌腫瘍症1型の原因遺伝子であるMEN1にバリエントが検出されたで胸腺腫瘍の患者さんについて、遺伝する生殖細胞系列バリエントであることを確認した。			
医療技術名	先天性クロール下痢症疑い症例の原因遺伝子SLC26A3検索	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 先天性クロール下痢症疑い症例の家系において、父、母、子ども(罹患者)の3名について原因遺伝子SLC26A3検索を行った。			
医療技術名	Fabry病の遺伝学的検査	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 Fabry病疑いの患者さんで原因遺伝子であるGLAの遺伝学的検査を実施した。			
医療技術名	角膜移植術	取扱患者数	98
当該医療技術の概要 角膜混濁や水疱性角膜症などに対する全層角膜移植術、角膜内皮移植術、深層層状角膜移植術など。			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	78
取扱い患者数の合計(人)	1199

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名		患者数		疾患名		患者数	
1	球脊髄性筋萎縮症	1	56	下垂体性PRL分泌亢進症		8	
2	筋萎縮性側索硬化症	7	57	クッシング病		2	
3	進行性核上性麻痺	4	58	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症		16	
4	パーキンソン病	269	59	下垂体前葉機能低下症		23	
5	大脳皮質基底核変性症	1	60	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)		1	
6	シャルコー・マリー・トゥース病	2	61	先天性副腎皮質酵素欠損症		5	
7	重症筋無力症	77	62	アジソン病		1	
8	多発性硬化症/視神経脊髄炎	67	63	サルコイドーシス		39	
9	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	5	64	特発性間質性肺炎		17	
10	封入体筋炎	2	65	肺動脈性肺高血圧症		6	
11	多系統萎縮症	9	66	慢性血栓性肺高血圧症		7	
12	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	27	67	網膜色素変性症		19	
13	ライソゾーム病	1	68	特発性門脈圧亢進症		6	
14	副腎白質ジストロフィー	1	69	原発性胆汁性胆管炎		58	
15	ミトコンドリア病	5	70	自己免疫性肝炎		23	
16	もやもや病	19	71	クローン病		31	
17	進行性多巣性白質脳症	1	72	潰瘍性大腸炎		167	
18	HTLV-1関連脊髄症	1	73	好酸球性消化管疾患		2	
19	特発性基底核石灰化症	1	74	全身型若年性特発性関節炎		7	
20	全身性アミロイドーシス	3	75	筋ジストロフィー		14	
21	神経線維腫症	8	76	脊髄空洞症		2	
22	天疱瘡	5	77	アイザックス症候群		1	
23	膿疱性乾癬(汎発型)	7	78	遺伝性ジストニア		2	
24	高安動脈炎	7	79	先天性無痛無汗症		1	
25	巨細胞性動脈炎	5	80	レノックス・ガストー症候群		1	
26	結節性多発動脈炎	8	81	結節性硬化症		2	
27	顕微鏡的多発血管炎	30	82	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)		10	
28	多発血管炎性肉芽腫症	5	83	マルファン症候群		2	
29	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	17	84	ウィルソン病		1	
30	悪性関節リウマチ	3	85	VATER症候群		1	
31	バージャー病	9	86	無脾症候群		1	
32	原発性抗リン脂質抗体症候群	5	87	ソス症候群		1	
33	全身性エリテマトーデス	220	88	ファロー四徴症		2	
34	皮膚筋炎/多発性筋炎	85	89	一次性ネフローゼ症候群		34	
35	全身性強皮症	41	90	一次性膜性増殖性糸球体腎炎		1	
36	混合性結合組織病	27	91	紫斑病性腎炎		7	
37	シェーグレン症候群	139	92	間質性膀胱炎(ハンナ型)		3	
38	成人スチル病	8	93	オスラー病		1	
39	再発性多発軟骨炎	3	94	肺胞低換気症候群		1	
40	ベーチェット病	30	95	α 1-アンチトリプシン欠乏症		1	
41	特発性拡張型心筋症	46	96	原発性高カイロミクロン血症		1	
42	肥大型心筋症	10	97	家族性地中海熱		2	
43	再生不良性貧血	23	98	強直性脊椎炎		7	
44	自己免疫性溶血性貧血	2	99	後天性赤芽球癆		2	
45	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2	100	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症		1	
46	特発性血小板減少性紫斑病	47	101	胆道閉鎖症		4	
47	血栓性血小板減少性紫斑病	1	102	IgG4関連疾患		5	
48	原発性免疫不全症候群	4	103	レーベル遺伝性視神経症		1	
49	IgA腎症	32	104	好酸球性副鼻腔炎		17	
50	多発性嚢胞腎	28	105	特発性多中心性キャッスルマン病		3	
51	黄色靱帯骨化症	10	106				
52	後縦靱帯骨化症	41	107				
53	広範脊柱管狭窄症	2	108				
54	特発性大腿骨頭壊死症	18	109				
55	下垂体性ADH分泌異常症	12	110				

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	105
合計患者数(人)	2013

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料(一般病棟7:1入院基本料, 結核病棟7:1入院基本料, 精神病棟13:1入院基本料)	・病棟薬剤業務実施加算 1・2
・入院時食事療養(Ⅰ)	・データ提出加算 2
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・入退院支援加算 1・3 地域連携診療計画加算 入院時支援加算 総合機能評価加算
・歯科外来診療環境体制加算 2	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・救急医療管理加算	・精神疾患診療体制加算
・超急性期脳卒中加算	・精神科急性期医師配置加算 2のイ
・診療録管理体制加算 2	・排尿自立支援加算
・医師事務作業補助体制加算 2 50:1	・地域医療体制確保加算
・急性期看護補助体制加算 25:1(看護補助者5割以上) 夜間100:1 急性期看護補助体制加算 夜間看護体制加算	・救命救急入院料 4 早期離床・リハビリテーション加算
・看護職員夜間配置加算 12:1配置加算 1	・特定集中治療室管理料 3 早期離床・リハビリテーション加算 早期栄養介入管理加算
・看護補助加算 2 (精神病棟)	・総合周産期特定集中治療室管理料 成育連携支援加算
・重症者等療養環境特別加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・無菌治療室管理加算 1	・小児入院医療管理料 1 無菌治療管理加算 2 養育支援体制加算
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・精神科リエゾンチーム加算	・
・摂食障害入院医療管理加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算 1	・
・感染対策向上加算 1 指導強化加算	・
・患者サポート体制充実加算	・
・報告書管理体制加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・後発医薬品使用体制加算 1	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・外来栄養食事指導料の注2に規定する基準	・こころの連携指導料(Ⅱ)
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	・薬剤管理指導料
・糖尿病合併症管理料	・医療機器安全管理料 1・2
・がん性疼痛緩和指導管理料	・医療機器安全管理料(歯科)
・がん患者指導管理料 イ・ロ・ハ・ニ	・精神科退院時共同指導料2
・外来緩和ケア管理料	・歯科治療時医療管理料
・移植後患者指導管理料(臓器移植後・造血幹細胞移植後)	・在宅酸素療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算
・糖尿病透析予防指導管理料	・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算
・小児運動器疾患指導管理料	・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・婦人科特定疾患治療管理料	・在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
・腎代替療法指導管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・一般不妊治療管理料	・遺伝学的検査
・生殖補助医療管理料 1	・染色体検査の注2に規定する施設基準
・二次性骨折予防継続管理料 1・3	・骨髄微小残存病変量測定
・下肢創傷処置管理料	・BRCA1/2遺伝子検査
・院内トリアージ実施料	・がんゲノムプロファイリング検査
・外来放射線照射診療料	・先天性代謝異常症検査
・外来腫瘍化学療法診療料 1	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・連携充実加算	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
・ニコチン依存症管理料(情報通信機器を用いた診療体制を有する)	・検体検査管理加算(Ⅰ)・(Ⅳ)
・療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算	・国際標準検査管理加算
・がん治療連携計画策定料	・遺伝カウンセリング加算
・外来排尿自立指導料	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・ハイリスク妊産婦連携指導料 2	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・肝炎インターフェロン治療計画料	・時間内歩行試験及びシヤトルウォーキングテスト

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・胎児心エコー法	・集団コミュニケーション療法料
・ヘッドアップティルト試験	・歯科口腔リハビリテーション料 2
・終夜睡眠ポリグラフィー(安全精度管理下で行うもの)	・児童思春期精神科専門管理加算
・神経学的検査	・療養生活継続支援加算
・補聴器適合検査	・認知療法・認知行動療法 1
・コンタクトレンズ検査料 1	・精神科ショート・ケア「小規模なもの」
・小児食物アレルギー負荷検査	・精神科デイ・ケア「小規模なもの」
・内服・点滴誘発試験	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・経気管支凍結生検法	・医療保護入院等診療料
・画像診断管理加算2	・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
・CT撮影及びMRI撮影	・硬膜外自家血注入
・冠動脈CT撮影加算	・エタノールの局所注入(甲状腺)
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・エタノールの局所注入(副甲状腺)
・外傷全身CT加算	・人工腎臓(慢性維持透析を行った場合 1)
・心臓MRI撮影加算	・導入期加算 2 及び腎代替療法実績加算
・乳房MRI撮影加算	・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
・小児鎮静下MRI撮影加算	・下肢末梢動脈疾患指導管理加算
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法
・外来化学療法加算 1	・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
・無菌製剤処理料	・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・歯科技工加算1及び2
・脳血管疾患等リハビリテーション料(II)	・皮膚移植術(死体)
・運動器リハビリテーション料(I)	・自家脂肪注入
・呼吸器リハビリテーション料(I)	・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・がん患者リハビリテーション料	・四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算
・リンパ浮腫複合的治療料	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(一連につき)(MRIによるもの)
・椎間板内酵素注入療法	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・腫瘍脊椎骨全摘術	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・内視鏡下脳腫瘍生検術および内視鏡下脳腫瘍摘出術	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜, 心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱)	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除・肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡支援機器を用いる場合)
・角結膜悪性腫瘍切除手術	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
・角膜移植術(内皮移植加算)	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・羊膜移植術	・胸腔鏡下弁形成術及び胸腔鏡下弁置換術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・不整脈手術 左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)
・緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	・経皮的中等心筋焼灼術
・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・網膜再建術	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・経外耳道の内視鏡下鼓室形成術	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・人工中耳植込術	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術
・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・耳管用補綴材挿入術	・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術5型(拡大副鼻腔手術)	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	・補助人工心臓
・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	・経皮的下肢動脈形成術
・喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)・(側方)
・内視鏡下甲状腺部分切除, 腺腫摘出術, 内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(重全摘)術(両葉), 内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・腹腔鏡下小切開副腎摘出術, 腹腔鏡下小切開腎部分切除術, 腹腔鏡下小切開腎摘出術, 腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術, 腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・内視鏡的逆流防止粘膜切除術	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・体外式膜型人工肺管理料
・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)	・胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定する手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)
・腹腔鏡下肝切除術	・輸血管管理料 I
・生体部分肝移植術	・輸血適正使用加算
・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	・コーディネート体制充実加算
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・自己生体組織接着剤作成術
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)・同種クリオプレシピテート作製術
・内視鏡的小腸ポリープ切除術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・胃瘻造設時嚙下機能評価加算
・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・生体腎移植術	・麻酔管理料 I・II
・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)	・周術期薬剤管理加算
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・歯科麻酔管理料
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・放射線治療専任加算
・人工尿道括約筋植込・置換術	・外来放射線治療加算
・膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)	・高エネルギー放射線治療
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・1回線量増加加算 2 (IMRT)
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・強度変調放射線治療(IMRT)
・腹腔鏡下仙骨腫固定術	・画像誘導放射線治療加算(IGRT)
・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・体外照射呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・定位放射線治療
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・定位放射線治療呼吸移動対策加算
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)	・画像誘導密封小線源治療加算
・腹腔鏡下子宮癒痕部修復術	・病理診断管理加算 2

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
会議録を活用した希少がん診断支援情報システムの構築	中西 陽子	腫瘍病理学分野	1,000,000	補 委 文科省科研費
進行性前立腺がんにおける転写因子OCT1の治療抵抗性獲得機序の解明とその臨床応用	大日方 大亮	泌尿器科学分野	2,200,000	補 委 文科省科研費
アルコール脱水素酵素の臓器障害発症への関与	奥田 貴久	法医学分野	2,000,000	補 委 文科省科研費
小腸共生環境と食による抗炎症・免疫機能の構築に関する研究	辻 典子	微生物学分野	1,000,000	補 委 文科省科研費
新たな内因性生理活性ガス送達システムの構築と移植医療への応用	平井 宗一	生体構造医学分野	2,400,000	補 委 文科省科研費
生体内インスリン動態制御機構の新規in vivo肝・膵イメージング法による解明	金丸 和典	生理学分野	4,200,000	補 委 文科省科研費
膵β細胞活動を生体内で可視化する新規指標を用いた2型糖尿病治療戦略基盤の探索	飯野 正光	生理学分野	4,100,000	補 委 文科省科研費
変形性膝関節症に対する脱分化脂肪細胞関節内投与による細胞治療開発	松本 太郎	細胞再生・移植医学分野	3,700,000	補 委 文科省科研費
労働者の休養が心身の健康に与える影響についての総合的疫学研究	井谷 修	公衆衛生学分野	410,169	補 委 文科省科研費
ヒト化マウスを用いた難治性喘息動物モデルの構築と病態解析への応用	権 寧博	呼吸器内科学分野	300,000	補 委 文科省科研費

糖尿病と糖尿病性腎症の進展を抑制するプロテインSを増加させるPIポリアミドの開発	常見 明子	腎臓高血圧内分泌内科学分野	1,200,000	補 委	文科省科研費
HTLV-1のシェーグレン症候群病態形成への直接的関与	中村 英樹	血液膠原病内科学分野	1,100,000	補 委	文科省科研費
抗酸菌の防御における細胞性免疫応答の解析と新規ワクチン開発	相澤 志保子	微生物学分野	800,000	補 委	文科省科研費
乳癌組織周囲における脂肪細胞の挙動の解明と新規治療法の開発	金田 英秀	小児外科学分野	1,100,000	補 委	文科省科研費
集中治療後症候群における脳機能障害発生機序の解明－脳萎縮と神経学的転帰との相関－	木下 浩作	救急集中治療医学分野	700,000	補 委	文科省科研費
パーキンソン病に対する脳深部刺激療法の治療利益の最大化に関する研究	深谷 親	神経外科学分野	600,000	補 委	文科省科研費
悪性神経腫瘍における抗てんかん薬の抗腫瘍効果	吉野 篤緒	神経外科学分野	1,000,000	補 委	文科省科研費
去勢抵抗性前立腺がんのアンドロゲン受容体転写協調因子を標的としたポリアミド創薬	高橋 悟	泌尿器科学分野	800,000	補 委	文科省科研費
腫瘍由来のエリスロポエチンが子宮筋腫を巨大に増大させる機序の解明と臨床的応用	佐藤 美紀子	産婦人科学分野	600,000	補 委	文科省科研費
脱分化脂肪細胞による耳管構造の改変－難治性中耳・耳管疾患の新治療戦略－	大島 猛史	耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野	1,200,000	補 委	文科省科研費
脱分化脂肪細胞 (DFAT) を導入した人工真皮と自家培養表皮による皮膚再建法の確立	副島 一孝	形成外科学分野	1,200,000	補 委	文科省科研費
顎口腔組織幹細胞を用いたオルガノイド試験管内再構築法確立のための革新的基礎研究	阿部 成宏	歯科口腔外科学分野	700,000	補 委	文科省科研費
インターネットやスマートフォンの適切使用に関する保健教育と介入効果に関する研究	兼板 佳孝	公衆衛生学分野	300,000	補 委	文科省科研費

マイクロ流路によるコアシェル型PBAナノ粒子の結晶成長制御とヘテロ接着界面の観測	糸井 充徳	物理学分野	500,000	補 委	文科省科研費
体液上方変位と高二酸化炭素血症が脳血流調節機能に与える複合影響の用量依存性	岩崎 賢一	衛生学分野	700,000	補 委	文科省科研費
不規則再生肝細胞に着目した新規肝癌バイオマーカーと創薬ターゲットの開発	山崎 元美	消化器肝臓内科学分野	1,200,000	補 委	文科省科研費
自己免疫性脳炎の新規治療ターゲット同定を目指した神経細胞表面抗体の分子病態解明	原 誠	神経内科学分野	1,100,000	補 委	文科省科研費
ポータブル睡眠脳波計を用いたうつ病個別化医療の実現に関する研究	鈴木 正泰	精神医学分野	1,200,000	補 委	文科省科研費
PIポリアミドによる低酸素細胞に対する放射線増感剤の開発	石橋 直也	放射線医学分野	1,200,000	補 委	文科省科研費
膀胱内薬剤注入療法における網内系との関連の解明	前林 俊也	放射線医学分野	1,000,000	補 委	文科省科研費
超早産児の赤血球の生化学的特徴の解明と遷延性重症黄疸感受性遺伝子の同定	森岡 一朗	小児科学分野	1,400,000	補 委	文科省科研費
肝線維化進展機序解明を目的としたインテグリンβ1と細胞接着に関する研究	増崎 亮太	消化器肝臓内科学分野	800,000	補 委	文科省科研費
糖尿病性腎症進展におけるUSF1の関与とUSF1結合阻害PIポリアミドの創薬開発	阿部 雅紀	腎臓高血圧内分泌内科学分野	1,200,000	補 委	文科省科研費
炎症性皮膚疾患患者における末梢血リボクオリティの解析	藤田 英樹	皮膚科学分野	1,000,000	補 委	文科省科研費
慢性特発性蕁麻疹の病態におけるマスト細胞と好塩基球の活性化機構の解明	岡山 吉道	医学教育センター	1,300,000	補 委	文科省科研費
Study on mechanisms of rubella virus infection to the fetus, possible alternative cellular receptors and factors	TRINH DUY QUANG	微生物学分野	700,000	補	文科省科研費

affecting the virus infection				委	
膵島ホルモン分泌細胞の代謝特性の解析と偽膵島作製による代謝・分泌障害機構の解明	石原 寿光	糖尿病代謝内科学分野	1,300,000	補 委	文科省科研費
TGF- β 1を標的とするポリアミドによる肝癌治療法の開発	高木 恵子	消化器外科学分野	1,100,000	補 委	文科省科研費
HPV E7癌蛋白質を標的とした免疫療法のコンパニオ診断開発のための基礎的研究	小松 篤史	産婦人科学分野	1,300,000	補 委	文科省科研費
子宮頸癌におけるWEE1阻害薬の検討およびその免疫環境の評価	池田 悠至	産婦人科学分野	1,000,000	補 委	文科省科研費
気道乳頭腫における予後予測因子の探索：診療の効率化を目指して	松崎 洋海	耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野	500,000	補 委	文科省科研費
味細胞内味覚受容Caシグナルの生体内イメージングと亜鉛欠乏による味覚障害機序解析	田中 真琴	耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野	800,000	補 委	文科省科研費
角膜神経のドライアイ疼痛症状に関与するメカニズム解明と治療応用	崎元 暢	眼科学分野	1,100,000	補 委	文科省科研費
糖尿病網膜症の発症予防のためのワクチン治療の開発と新規糖尿病網膜症モデルの確立	横田 陽匡	眼科学分野	1,200,000	補 委	文科省科研費
マイクロサージャリーによる再建外科へのロボット支援手術の応用に関する検討	檜村 勉	形成外科学分野	1,100,000	補 委	文科省科研費
救急医療の評価手法の研究－重症頭部外傷の予後予測モデルの立案－	前田 幸宏	医療管理学分野	400,000	補 委	文科省科研費
乳幼児のサボウイルス感染症の分子疫学と感染免疫	沖津 祥子	微生物学分野	1,000,000	補 委	文科省科研費
肥満2型糖尿病のインスリン分泌および作用障害におけるXORの役割の解明	藤城 緑	糖尿病代謝内科学分野	800,000	補 委	文科省科研費

微分幾何学に現れる可積分系とその離散化	宇田川 誠一	数学分野	500,000	補 委	文科省科研費
「負」の造血制御による赤血球恒常性維持機構	原田 智紀	生体構造医学分野	600,000	補 委	文科省科研費
核内受容体LXRが制御する肝臓免疫細胞間相互作用の解析	梅田 香織	生化学分野	1,300,000	補 委	文科省科研費
MYC高発現乳癌における若年性乳癌：転写因子E2F5の関与機序の解明	増田 しのぶ	腫瘍病理学分野	900,000	補 委	文科省科研費
膝がんモデルマウスを用いた概日リズム異常改善による睡眠障害と膝腫瘍の抑制	佐野 誠	医学研究企画・推進室	1,100,000	補 委	文科省科研費
免疫ヒト化マウスを用いた心理社会的ストレス関連喘息の分子病態の解明	丸岡 秀一郎	呼吸器内科学分野	1,400,000	補 委	文科省科研費
肺がんにおけるがん抗原特異的自己抗体の同定	清水 哲男	呼吸器内科学分野	1,000,000	補 委	文科省科研費
特発性肺線維症における鉄代謝によるミトコンドリアDNA放出機構と線維化の解明	水村 賢司	呼吸器内科学分野	1,100,000	補 委	文科省科研費
特発性肺線維症に対する脱分化脂肪細胞静脈内投与による治療効果の検討	風間 智彦	細胞再生・移植医学分野	800,000	補 委	文科省科研費
COMMD5による急性腎障害から慢性腎臓病への進展予防メカニズムの解明	松田 裕之	医学研究企画・推進室	1,200,000	補 委	文科省科研費
多発性嚢胞腎患者由来腎オルガノイドを用いたGSK3βPIポリアミドの創薬	福田 昇	細胞再生・移植医学分野	1,000,000	補 委	文科省科研費
血液凝固第IX因子由来ペプチドの血管保護作用	日だい 智明	医学教育センター	1,900,000	補 委	文科省科研費
肛門括約筋障害に対する脱分化脂肪細胞由来のexosomeを用いた筋再生治療の検討	細川 崇	小児外科学分野	1,100,000	補 委	文科省科研費

同一がん遺伝子内複数変異、免疫関連遺伝子発現に着目した肝細胞がんに対する治療戦略	岡村 行泰	消化器外科学分野	1,100,000	補 委	文科省科研費
脱分化脂肪細胞移植による側副血管リモデリングメカニズムの解明	山元 智衣	細胞再生・移植医学分野	1,100,000	補 委	文科省科研費
偽腔閉塞型大動脈解離における急性期炎症と組織修復機序に関する検討	田中 正史	心臓血管外科学分野	1,300,000	補 委	文科省科研費
ロクロニウムの蛋白結合率から解析する残存筋弛緩の防止策の解明	高木 俊一	麻酔科学分野	1,100,000	補 委	文科省科研費
担がんモデルマウスを用いた新たながんサポーターケアの確立	鈴木 孝浩	麻酔科学分野	1,500,000	補 委	文科省科研費
定量脳波を用いた急性脳炎・脳症の神経損傷の評価指標の開発	森田 昭彦	神経内科学分野	800,000	補 委	文科省科研費
pHイメージングを用いた脳梗塞における酸感受性イオンチャンネルの分子機構の解明	五十嵐 崇浩	神経外科学分野	1,100,000	補 委	文科省科研費
子宮頸癌前癌病変に対するHPV標的癌ワクチンの効果増強に関する研究	川名 敬	産婦人科学分野	600,000	補 委	文科省科研費
角膜移植におけるエクソソームの役割と治療応用	山上 聡	眼科学分野	1,100,000	補 委	文科省科研費
マルチオミクスを用いた新規歯周疾患マーカーの開発	土田 祥央	臨床検査医学分野	1,200,000	補 委	文科省科研費
薬物治療の意思決定プロセスに影響する要因連関の可視化による医療安全対策の研究	渋谷 昭子	医療管理学分野	400,000	補 委	文科省科研費
在宅勤務者のための睡眠・精神的健康増進プログラム開発とその有効性に関する疫学研究	松本 悠貴	公衆衛生学分野	800,000	補 委	文科省科研費
miRNA発現パターンと病理所見に基づく機械学習による冠動脈硬化症のクラスター化	鉄 堅	法医学分野	1,000,000	補 委	文科省科研費

ICT活用によるシームレスな摂食嚥下リハビリテーションシステムの開発	永井 多賀子	整形外科学分野	1,000,000	補 委	文科省科研費
低出生体重-やせ型糖尿病の病態解明と乳清たんぱく質による新たな栄養療法の開発	長野 伸彦	小児科学分野	2,500,000	補 委	文科省科研費
個体差形成に関する匂い-ストレス反応における選択的抑制機構の解明	松川 睦	生体構造医学分野	1,100,000	補 委	文科省科研費
内視鏡を用いた3次元胃形態計測システムの開発：胃もたれの病態解明と診断への挑戦	鈴木 翔	消化器肝臓内科学分野	1,500,000	補 委	文科省科研費
解剖体の多目的利用を可能とする新たな処置方法の開発及び管理運用システムの構築	平井 宗一	生体構造医学分野	1,900,000	補 委	文科省科研費
ロングリードシーケンスを用いた混合ゲノム試料解析の探索的研究	奥田 貴久	法医学分野	1,900,000	補 委	文科省科研費
女性小児がん経験者の妊孕性についての研究	平井 麻衣子	小児科学分野	300,000	補 委	文科省科研費
冠動脈不安定粥腫プラにおけるステント留置後の第Xa因子阻害抗凝固薬の効果の検討	北野 大輔	循環器内科学分野	299,597	補 委	文科省科研費
混合型小細胞肺癌の腫瘍進展機構の解明と新たな治療標的の探索	飯田 由子	呼吸器内科学分野	500,000	補 委	文科省科研費
マスト細胞由来エクソソームmiRNAによるIL-5産生増強機構の解明	豊島 翔太	医学教育センター	1,200,000	補 委	文科省科研費
白金錯体結合PIポリアミドによる神経芽腫に対する新規治療薬の開発	植草 省太	小児外科学分野	800,000	補 委	文科省科研費
神経芽腫における脱分化脂肪細胞由来exosomeを用いた分化誘導療法の新規開発	星 玲奈	小児外科学分野	1,000,000	補 委	文科省科研費
妊婦における左側臥位および子宮左方偏位が大静脈に与える影響	古谷 友則	麻酔科学分野	200,000	補 委	文科省科研費

鼻副鼻腔乳頭腫の腫瘍組織におけるIL-33およびST2発現の検討	永田 善之	耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野	500,000	補 委	文科省科研費
場の理論にもとづく動的均衡にあるレザボワ計算神経回路の設計	早川 隆	薬理学分野	499,996	補 委	文科省科研費
インスリン分泌促進とβ細胞死の境界を決めるミトコンドリアCa ²⁺ 制御因子の探索	太向 勇	生理学分野	1,400,000	補 委	文科省科研費
ホジキンリンパ腫における多重蛍光染色を用いた腫瘍微小環境の同定と予後に与える影響	高橋 宏通	臨床検査医学分野	300,000	補 委	文科省科研費
血管内皮前駆細胞により生体外内皮化された薬剤溶出性ステントの開発	塚田 実郎	放射線医学分野	800,000	補 委	文科省科研費
前立腺癌に対する新規放射線増感剤の開発	坂口 雅州	放射線医学分野	1,800,000	補 委	文科省科研費
シリトク欠損症における乳児期肝障害の病態解明と新規治療開発	市野井 那津子	小児科学分野	800,000	補 委	文科省科研費
心不全患者における超音波エラストグラフィー法による臓器うっ血評価法の確立	齋藤 佑記	循環器内科学分野	100,000	補 委	文科省科研費
先天代謝異常症に対する羊膜上皮細胞治療の開発	高野 智圭	微生物学分野	1,000,000	補 委	文科省科研費
神経芽腫の栄養飢餓耐性獲得と抗がん剤耐性獲得機序におけるTFAP2Eの役割の検討	長崎 瑛里	小児外科学分野	1,800,000	補 委	文科省科研費
廃用性筋萎縮に対するα7アセチルコリン受容体刺激薬GTS-21の抑制効果の検討	岩崎 肇	麻酔科学分野	1,300,000	補 委	文科省科研費
低温プラズマによる悪性神経膠腫治療の基礎研究	落合 祐之	神経外科学分野	1,000,000	補 委	文科省科研費
膠芽腫に対するアミノ酸代謝酵素を標的とした分化誘導療法の前臨床研究	山室 俊	神経外科学分野	1,100,000	補 委	文科省科研費

リウマチ性関節炎におけるマスト細胞のmiR199aによるPGD2制御機序の解明	李 賢鎬	整形外科学分野	1,100,000	補 委	文科省科研費
腔細菌叢による腔内恒常性維持機構の解明	高田 和秀	微生物学分野	1,100,000	補 委	文科省科研費
VHL発現に着目した舌異形成から癌への分子機構の解明と新たな舌癌の治療法の開発	長谷川 央	耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野	1,200,000	補 委	文科省科研費
ウェアラブルデバイスを用いた医師のストレスや情動状態による医療事故への影響の研究	市川 理恵	医療管理学分野	1,100,000	補 委	文科省科研費
生活習慣病の高リスク小児同定のための内臓脂肪計とコレステロール質的マーカーの開発	阿部 百合子	医学教育センター	1,200,000	補 委	文科省科研費
カラー静止画像を用いた経皮ビリルビン測定システムの実用化に向けた臨床研究	香山 一憲	小児科学分野	1,000,000	補 委	文科省科研費
脂肪酸不飽和化酵素を標的とした新規がん免疫療法および、治療効果予測マーカーの開発	加藤 侑希	生体構造医学分野	1,000,000	補 委	文科省科研費
大動脈解離を予測するための大動脈内視鏡を用いた大動脈ハイリスク病変の検討	小嶋 啓介	循環器内科学分野	1,300,000	補 委	文科省科研費
カテーテルアブレーションが心房周囲脂肪および脂肪浸潤に及ぼす経時的変化	渡邊 隆大	循環器内科学分野	1,000,000	補 委	文科省科研費
糖尿病性腎症の進展における新規BMP拮抗分子の機能解析	小林 洋輝	腎臓高血圧内分泌内科学分野	1,200,000	補 委	文科省科研費
急性骨髄性白血病の緩解維持・再発予測におけるNK活性と白血病細胞表面抗原の重要性	飯塚 和秀	臨床検査医学分野	1,200,000	補 委	文科省科研費
自己免疫疾患における免疫チェックポイント分子を応用した新規治療の創出	塚本 昌子	血液膠原病内科学分野	1,100,000	補 委	文科省科研費
AIモーションキャプチャーを用いた手指関節可動域の測定法の確立	谷本 浩二	整形外科学分野	1,100,000	補 委	文科省科研費

硬膜外脂肪組織由来DFATの神経再生能の検討	澤田 浩克	整形外科学分野	400,000	補 委	文科省科研費
先天性サイトメガロウイルス難聴に対する治療効果判定法の新スタンダードの確立	木村 優介	耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野	1,300,000	補 委	文科省科研費
滲出型加齢黄斑変性に対するPIポリアミドの有効性の検討	佐野 優	眼科学分野	1,300,000	補 委	文科省科研費
テレワークが労働者の身体的・精神的健康に与える影響についての総合的疫学研究	大塚 雄一郎	公衆衛生学分野	1,200,000	補 委	文科省科研費
小児心身症における腸内フローラ解析とプロバイオティクスの有効性に関する研究	石井 和嘉子	小児科学分野	1,200,000	補 委	文科省科研費
脳卒中患者の転帰予測に有用な超急性期の栄養状態評価指標の作成と栄養介入効果の検証	秋本 高義	神経内科学分野	1,300,000	補 委	文科省科研費
強い空腹後の摂食時におけるマウス回腸PGF15の発現低下の分子メカニズムの解明	片瀨 剛	生化学分野	1,100,000	補 委	文科省科研費
免疫チェックポイント分子を応用したミセル型ナノ粒子ポリマーワクチンの創出	塚本 昌子	血液膠原病内科学分野	1,100,000	補 委	文科省科研費
卵巣癌に対する効果的なCAR-T細胞療法の開発を目指した基盤的研究	松田 恵里那	産婦人科学分野	1,200,000	補 委	文科省科研費
慢性の痛み患者への就労支援/仕事と治療の両立支援および労働生産性の向上に寄与するマニュアルの開発と普及・啓発	加藤 実	麻酔科学分野	300,000	補 委	厚生労働科研費
新生児スクリーニング対象疾患等の先天代謝異常症における生涯にわたる診療体制の整備に関する研究	石毛 美夏	小児科学分野	700,000	補 委	厚生労働科研費
皮膚の遺伝関連性希少難治性疾患群の網羅的研究	葉山 惟大	皮膚科学分野	950,000	補 委	厚生労働科研費
難治性小児消化器疾患の医療水準向上および移行期・成人期のQOL向上に関する研究	越永 従道	小児外科学分野	300,000	補 委	厚生労働科研費

自己免疫疾患に関する調査研究	中村 英樹	血液膠原病内科学分野	180,000	補 委	厚生労働科 研費
稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究	照井 正	皮膚科学分野	500,000	補 委	厚生労働科 研費
慢性腎臓病(CKD)患者に特有の健康課題に適合した多職種連携による生活・食事指導等の実証研究	阿部 雅紀	腎臓高血圧内分泌内科学分野	700,000	補 委	厚生労働科 研費
適切な睡眠・休養促進に寄与する「新・健康づくりのための睡眠指針」と連動した行動・習慣改善ツール開発及び環境整備	鈴木 正泰	精神医学分野	400,000	補 委	厚生労働科 研費
適切な睡眠・休養促進に寄与する「新・健康づくりのための睡眠指針」と連動した行動・習慣改善ツール開発及び環境整備	兼板 佳孝	公衆衛生学分野	400,000	補 委	厚生労働科 研費
早産児ビリルビン脳症の診療指針の改訂および包括的診療体制の確立	森岡 一朗	小児科学分野	400,000	補 委	厚生労働科 研費
性感染症に関する特定感染症予防指針に基づく対策の推進に関する研究	川名 敬	産婦人科学分野	1,000,000	補 委	厚生労働科 研費
急性弛緩性麻痺, 急性脳炎・脳症等の神経疾患に関する網羅的病原体検索を含めた原因及び病態の究明, 治療法の確立に資する臨床疫学研究	原 誠	神経内科学分野	450,000	補 委	厚生労働科 研費
HAMならびに類縁疾患の患者レジストリを介した診療連携モデルの構築によるガイドラインの活用促進と医療水準の均てん化に関する研究	原 誠	神経内科学分野	300,000	補 委	厚生労働科 研費
慢性疼痛診療システムの均てん化と痛みセンター診療データベースの活用による医療向上を目指す研究	加藤 実	麻酔科学分野	200,000	補 委	厚生労働科 研費
スモンに関する調査研究	中嶋 秀人	神経内科学分野	1,000,000	補 委	厚生労働科 研費
オーダーメイドな肝炎ウイルス感染防止・重症化予防ストラテジーの確立に資する研究	森岡 一朗	小児科学分野	1,000,000	補 委	厚生労働科 研費
がん・生殖医療連携ネットワークの全国展開と小児・AYA世代がん患者に対する妊孕性温存の市hん量体制の均てん化にむけた臨床研究ーがん医療の充実を志向して	佐藤 美紀子	産婦人科学分野	0	補 委	厚生労働科 研費

飲酒、喫煙等生活習慣の実態把握及び生活習慣の改善に向けた研究	兼板 佳孝	公衆衛生学分野	0	補 委	厚生労働科 研費
飲酒、喫煙等生活習慣の実態把握及び生活習慣の改善に向けた研究	井谷 修	公衆衛生学分野	0	補 委	厚生労働科 研費
飲酒、喫煙等生活習慣の実態把握及び生活習慣の改善に向けた研究	大塚 雄一郎	公衆衛生学分野	0	補 委	厚生労働科 研費
中性脂肪蓄積心筋血管症の診療体制の構築	羽尾 裕之	人体病理学分野	0	補 委	厚生労働科 研費
消化管過誤腫性腫瘍好発疾患群の小児から成人へのシームレスな診療体制構築のための研究	山本 敏樹	消化器肝臓内科学分野	0	補 委	厚生労働科 研費
軟骨炎症性疾患の診断と治療体系の確立	北村 登	血液膠原病内科学分野	0	補 委	厚生労働科 研費
適切な睡眠・休養促進に寄与する「新・健康づくりのための睡眠指針」と連動した行動・習慣改善ツール開発及び環境整備	井谷 修	公衆衛生学分野	0	補 委	厚生労働科 研費
レジリエント・ヘルスケアによる医療の質向上・安全推進に資する研究	櫻井 敦	救急集中治療医学分野	0	補 委	厚生労働科 研費
フィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病に対するボナチニブを組み込んだ治療法の確立と分子基盤の解明	八田 善弘	血液膠原病内科学分野	14,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
経口感染によるウイルス性肝炎（A型及びE型）の感染防止、病態解明、治療等に関する研究	神田 達郎	消化器肝臓内科学分野	16,615,385	補 委	日本医療研究開発機構
重症下肢虚血に対する脱分化脂肪細胞（DFAT）を用いた細胞治療の実用化	松本 太郎	細胞再生・移植医学分野	33,518,775	補 委	日本医療研究開発機構
多様なミトコンドリア病の遺伝子型/表現型/自然歴等をガイドラインに反映させていくエビデンス創出研究	小川 えりか	小児科学分野	200,000	補 委	日本医療研究開発機構
可及的摘出術が行われた初発膠芽腫に対するカルムスチン脳内留置剤を用いた標準治療確立に関する研究	吉野 篤緒	神経外科学分野	200,000	補 委	日本医療研究開発機構

新規培養技術を用いた、扁平腺接合部細胞における高悪性度HPV18型の潜伏持続感染および発癌機構の解明	池田 悠至	産婦人科学分野	2,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
母子感染によるリスク評価や予防法を含む母子保健体制構築と技術開発研究	川名 敬	産婦人科学分野	370,000	補 委	日本医療研究開発機構
気密環境下製造粘膜上皮シートの実用化	山上 聡	眼科学分野	11,600,000	補 委	日本医療研究開発機構
乳がん・大腸がん・膵がんに対する適切な薬剤投与を可能にする大規模データ基盤の構築	高橋 泰夫	臨床試験研究センター	3,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
洞不全症候群の臨床情報・遺伝学的解析に基づくリスク層別化アルゴリズムの開発	奥村 恭男	循環器内科学分野	100,000	補 委	日本医療研究開発機構
リンパ管奇形に対する越婢加朮湯の効果を評価する臨床研究	上原 秀一郎	小児外科学分野	200,000	補 委	日本医療研究開発機構
慢性骨髄性白血病患者における第二世代チロシンキナーゼ阻害薬の中止後の無治療寛解の評価と最適化	入山 規良	血液膠原病内科学分野	400,000	補 委	日本医療研究開発機構
早期非小細胞肺癌に対する体幹部定位放射線治療線量増加ランダム化比較試験	前林 俊也	放射線医学分野	390,000	補 委	日本医療研究開発機構
肝腫瘍におけるAI支援超音波診断システムの実用化研究	小川 眞広	消化器肝臓内科学分野	650,000	補 委	日本医療研究開発機構
中性脂肪蓄積心筋血管症の診療に直結するエビデンス創出研究	羽尾 裕之	人体病理学分野	100,000	補 委	日本医療研究開発機構
タイ王国における下痢症ウイルスに関する研究	牛島 廣治	微生物学分野	3,800,000	補 委	日本医療研究開発機構

日本のトキソプラズマ症の感染実態把握とその制御に向けた協創的研究開発	森岡 一朗	小児科学分野	1,500,000	補 委	日本医療研究開発機構
レム睡眠からアプローチする精神・神経疾患の理解とその克服	陳 和夫	呼吸器内科学分野	2,500,000	補 委	日本医療研究開発機構
AYA世代および成人T細胞性急性リンパ性白血病の小児型治療適用における限界年齢と新規バイオマーカー探索に関する研究	八田 善弘	血液膠原病内科学分野	150,000	補 委	日本医療研究開発機構
粘膜免疫を基盤とした下痢症ウイルスに対する画期的医薬品開発の実用化に資する研究	牛島 廣治	微生物学分野	1,500,000	補 委	日本医療研究開発機構
利活用を目的とした日本疾患バイオバンクの運営・管理	浅井 聡	臨床試験研究センター	2,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
利活用を目的とした日本疾患バイオバンクの運営・管理	浅井 聡	臨床試験研究センター	109,181,819	補 委	日本医療研究開発機構
慢性腎臓病を合併した冠動脈疾患ベリハイリスク患者の心血管イベント抑制を目的とした冠動脈MRブランクイメージングの有効性を検証する多施設前向き無作為化対照試験	松本 直也	循環器内科学分野	1,020,000	補 委	日本医療研究開発機構
睡眠時無呼吸患者の持続陽圧(CPAP)導出ビッグデータを利用した、アドヒアランス向上と生活習慣病改善を目指した基盤的研究	權 寧博	呼吸器内科学分野	100,000	補 委	日本医療研究開発機構
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対する疫学調査等の推進に関する研究	權 寧博	呼吸器内科学分野	500,000	補 委	日本医療研究開発機構
デュアルエナジーCTやデジタルX線動画による急性肺血栓塞栓症	岡田真広	放射線医学分野	2,800,000	補 委	文科省科研費

計173件

- (注 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。)
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Shibutani K, Okada M, Tsukada J, et al	放射線診断科	Predictive value of combined computed tomography volumetry and magnetic resonance elastography for major complications after liver resection	Abdominal Radiology 2021;46(7):3193-3204	Original Article
2	Shibutani K, Okada M, Tsukada J, et al	放射線診断科	A proposed model on MR elastography for predicting postoperative major complications in patients with hepatocellular carcinoma	BJR open, 2021 Nov 24;3(1):20210019	Original Article
3	Maebayashi T, Ishibashi N, Aizawa T, et al.	放射線治療科	Stereotactic radiotherapy for hepatocellular carcinoma induced by hepatitis C and the relationships of changes in carbohydrate antigen 19-9 with AFP and PIVKA-II	Cancer Radiother. 2021 May;25(3):242-248.	Original Article
4	Sakaguchi M, Maebayashi T, Aizawa T, et al.	放射線治療科	Association between unintentional splenic radiation and lymphopenia and high neutrophil/lymphocyte ratio after radiotherapy in patients with esophageal cancer	Transl Cancer Res. 2021 Dec;10(12):5076-5084.	Original Article

5	Ishibashi N, Maebayashi T, Sakaguchi M, et al.	放射線治療科	Bladder filling volume variation between the first and second day of planning computed tomography for prostate cancer radiation therapy and correlation with renal function	Asia Pac J Clin Oncol. 2021 Oct 3. doi: 10.1111/ajco.13603.	Original Article
6	Ishibashi N, Nakanishi Y, Nishimaki H, et al.	放射線治療科	Bladder mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma progressed from chronic cystitis along with a comparative genetic analysis during long-term follow-up: a case report	Transl Androl Urol. 2021 Oct;10(10):3899-3906.	Case report
7	Matsumoto N, Ogawa M, Kaneko M, et al.	消化器・肝臓内科	Quantitative Ultrasound Image Analysis Helps in the Differentiation of Hepatocellular Carcinoma (HCC) From Borderline Lesions and Predicting the Histologic Grade of HCC and Microvascular Invasion	Journal of Ultrasound in Medicine. 2021 Apr;40(4):689-698	Original Article
8	Kuniyoshi N, Imazu H, Hayama J, et al.	消化器・肝臓内科	Intracholecystic Papillary Neoplasm of the Gallbladder Preoperatively Diagnosed by Endoscopic Ultrasonography and Peroral Cholangioscopy	ACG Case Reports Journal. 2021 May;8(5):e00574	Case report
9	Kumagawa M, Matsumoto N, Miura K, et al.	消化器・肝臓内科	Correlation between alterations in blood flow of malignant lymphomas after induction chemotherapies and clinical outcomes: a pilot study utilising contrast-enhanced ultrasonography for early interim evaluation of lymphoma treatment	Clinical Radiology. 2021 Jul;76(7):550.e9-550.e17	Original Article

10	Kanda T, Sasaki-Tanaka R, Masuzaki R, et al.	消化器・肝臓内科	Knockdown of Mitogen-Activated Protein Kinase Kinase 3 Negatively Regulates Hepatitis A Virus Replication	International Journal of Molecular Sciences. 2021 Jul;22(14):7420	Original Article
11	Matsumoto N, Ogawa M, Kanda T, et al.	消化器・肝臓内科	Large-volume cell-free and concentrated ascites reinfusion therapy improves venous flow in patients with liver cirrhosis	Journal of Medical Ultrasonics. 2021 Jul;48(3):315-322	Original Article
12	Matsumoto N, Kumagawa M, Ogawa M, et al.	消化器・肝臓内科	Ultrasonographic grayscale findings related to fibrosis in patients with non-alcoholic fatty liver disease: comparison with transient elastography and Fib-4 index	Journal of Medical Ultrasonics. 2021 Jul;48(3):323-333	Original Article
13	Nirei K, Kanda T, Masuzaki R, et al.	消化器・肝臓内科	Follow-Up of Patients Who Achieved Sustained Virologic Response after Interferon-Free Treatment against Hepatitis C Virus: Focus on Older Patients	Medicina. 2021 Jul;57(8):761	Original Article
14	Totsuka M, Honda M, Kanda T, et al.	消化器・肝臓内科	Japanese Man with HCV Genotype 4 Infection and Cirrhosis Who was Successfully Treated by the Combination of Glecaprevir and Pibrentasvir	Internal Medicine. 2021 Jul;60(13):2061-2066	Case report

15	Kanda T	消化器・肝臓内科	No additive effects of peginterferon on the short-term improvement of liver histology by entecavir monotherapy in chronic hepatitis B patients	Hepatology International. 2021 Jun;15(3):579-581	Others
16	Iwamoto M, Koshinaga T, Fujita E, et al.	消化器・肝臓内科	Ileal Dieulafoy lesion arose 15 years after partial small bowel resection for meconium obstruction of the neonate: a case report	BMC Pediatrics. 2021 Oct;21(1):437	Case report
17	Yamana Y, Kanda T, Matsumoto N, et al.	消化器・肝臓内科	Efficacy of Glecaprevir/Pibrentasvir for Real-World HCV Infected Patients in the Northern Part of Tokyo, Japan	Journal of Clinical Medicine. 2021 Nov;10(23):5529	Original Article
18	Aoki H, Matsumoto N, Takahashi H, et al.	消化器・肝臓内科	Immune Checkpoint Inhibitor as a Therapeutic Choice for Double Cancer: A Case Series	Anticancer Research. 2021 Dec;41(12):6225-6230	Case report
19	Mizutani T, Nirei K, Kanda T, et al.	消化器・肝臓内科	Left Gastric Vein Width Is an Important Risk Factor for Exacerbation of Esophageal Varices Post Balloon-Occluded Retrograde Transvenous Obliteration for Gastric Varices in Cirrhotic Patients	Medicina. 2022 Jan;58(2):205	Original Article

20	Sasaki-Tanaka R, Shibata T, Okamoto H, et al.	消化器・肝臓内科	Favipiravir Inhibits Hepatitis A Virus Infection in Human Hepatocytes	International Journal of Molecular Sciences. 2022 Feb;23(5):2631	Original Article
21	Iwamoto M, Kato K, Kusumi Y, et al.	消化器・肝臓内科	Celiac Disease Diagnosed after Gastrectomy for Gastric Cancer	Internal Medicine. 2022 Feb;61(3):323-328	Case report
22	Ishii T, Hoshino T, Honda M, et al.	消化器・肝臓内科	A Case of Recent Liver Injury Induced by Benzbromarone	Reports. 2022 Mar;5(1):8	Case report
23	Kaneko Y, Suzuki M, Nagai K, et al	精神神経科	Differential effects of aging and cognitive decline on visual exploration behavior in the elderly	Neuroscience Research, 2021 Oct; 171: 62-66	Original Article
24	Kaneko Y, Konno C, Saitoh K, et al.	精神神経科	Association of insomnia symptoms and non-restorative sleep with Typus melancholicus: a Japanese general population survey	Sleep and Biological Rhythms, 2022 Mar: 20: 391-395	Original Article

25	Kanamori T, Kaneko Y, Yamada K, et al.	精神神経科	Successful combination therapy of trazodone and fluvoxamine for pica in Alzheimer's disease: A case report	Frontiers in Psychiatry, 2021 Jul: Article 704847 (オンライン)	Case report
26	八田善弘	血液・腫瘍内科	Dasatinib-based 2-step induction for adults with Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia.	Blood Advance. 2022 6 (2) : 624-636, 2021	Original Article
27	八田善弘	血液・腫瘍内科	Outcomes of adolescents and young adults with chronic-phase chronic myeloid leukaemia treated with tyrosine kinase inhibitors.	Annals of Medicine. 54(1):1244-1254, 2022.	Original Article
28	Hori, Obinata, Funakoshi et al.	泌尿器科	Preoperative CT volumetry of estimated residual kidney for prediction of postoperative chronic kidney disease in patients with renal cell carcinoma	Clin Exp Nephrol. 2021 Mar;25(3):315-321.	Original Article
29	Yoshizawa, Mochida, Yamaguchi, et al.	泌尿器科	Laparoscopic sacrocolpopexy for pelvic organ prolapse: Comparison of standard versus tacker combination method	Int J Urol. 2021 Dec;28(12):1227-1232	Original Article

30	Takahashi S, Takei M, Asakura H, et al.	泌尿器科	Clinical Guidelines for Female Lower Urinary Tract Symptoms (second edition)	Int J Urol 2021 Mar; 28: 474-492	Original Article
31	Takahashi S, Kato K, Takei M, et al	泌尿器科	Efficacy and safety of the noradrenaline reuptake inhibitor, TAS-303, in women with stress urinary incontinence: Results of a double-blind, randomized, placebo-controlled, early phase II trial	Int J Urol 2021 Nov; 28: 82-90	Original Article
32	Takahashi S, Kato D, Tabuchi H,	泌尿器科	Safety and effectiveness of mirabegron in male patients with overactive bladder with or without benign prostatic hyperplasia: A Japanese post-marketing study.	Low Urin Tract Symptoms 2021 Aug; 13: 79-87	Original Article
33	Kimura Y, Yamaguchi S, Suzuki T, et al.	麻酔科	Switching From Pregabalin to Mirogabalin in Patients with Peripheral Neuropathic Pain: A Multi-Center, Prospective, Single-Arm, Open-Label Study (MIROP Study)	Pain Ther 2021;10(1):711-27	Original Article
34	Nishimura-Tagui M, Hayama K, Fujita H, et al.	皮膚科	Disseminated Mycobacterium massiliense skin infection in an immunocompromised patient requiring long-term treatment.	Journal of Dermatology 2021 Apr; 48(4): e201-e202. (オンライン)	Case report

35	Nishimori N, Toyoshima S, Sasaki-Sakamoto T, et al.	皮膚科	Serum level of hemokinin-1 is significantly lower in patients with chronic spontaneous urticaria than in healthy subjects.	Allergology International 2021 Oct; 70(4): 480-488.	Original Article
36	Ikumi N, Hayama K, Terui T, et al.	皮膚科	Retrospective study of the differences in the management for pustulotic arthro-osteitis in patients with palmoplantar pustulosis between dermatologists and rheumatologists.	Journal of Dermatology 2021 Nov; 48(11): e551- e553. (オンライン)	Letter
37	Ikumi N, Terui T, Fujita H	皮膚科	Peripheral arthritis presenting pencil-in-cup deformity in a patient with palmoplantar pustulosis.	Journal of Dermatology 2021 Dec; 48(12): e612- e613. (オンライン)	Case report
38	Nagaoka-Takatori A, Ishii M, et al.	皮膚科	A Case of IgA Vasculitis During Nivolumab Therapy for Renal Cell Carcinoma.	Clinical, cosmetic and investigational dermatology 2021 Dec; 24(14): 1885-1888.	Case report
39	Hayama K, Fujita H, Hashimoto T, et al.	皮膚科	Overall Impairment of Quality of Life in Japanese Patients with Hidradenitis Suppurativa: Comparison with National Standard.	Acta Dermato- Venereologia 2022 Jan; 102: adv00632.	Original Article

40	Nishimori N, Niwa Y, Kazama A, et al.	皮膚科	Extensive expression of SARS-CoV-2 spike protein from the eccrine secretory gland to acrosyringium in the maculopapular eruption of a COVID-19 patient.	Journal of Dermatology 2022 Jan; 49(1): e11-e12. (オンライン)	Case report
41	Asakura M, Yoshida K, Ishii M, et al.	皮膚科	Case of oral glycogenic acanthosis clinically resembling lichen planus.	Journal of Dermatology 2022 Mar; 49(3): 119-120.	Case report
42	Nishimori N, Izaki S, Kashimura T, et al.	皮膚科	A case of squamous cell carcinoma arising from plasma cell cheilitis.	International Journal of Dermatology 2022 Jun;61(6):e232-e233. (オンライン)	Case report
43	Fujita H, Goederham M, Romiti R	皮膚科	Diagnosis of Generalized Pustular Psoriasis.	American Journal of Clinical Dermatology 2022; 23(Suppl 1): 31-38.	Review
44	Ikeda Y, Komatsu A, Kawana K, et al.	産婦人科	A placebo-controlled double-blind randomized (Phase IIB) trial of oral administration with HPV16 E7-expressing Lactobacillus, GLBL101c, for treatment of cervical intraepithelial neoplasia grade 2 (CIN2),	Vaccines 2021, 9(4), 329	Original Article

45	Maebayashi A, Hayashi N, Kawana K, et al.	産婦人科	Thrombus formation and ischemic necrosis of the uterus and adnexa due to purpura fulminans: A case report	J Obstet Gynaecol Res, 2021 Dec;47(12):4478-4483	Original Article
46	Oda H, Nagamatsu T, Kawana K, et al.	産婦人科	Thrombomodulin promotes placental function by up-regulating placental growth factor via inhibition of high-mobility-group box 1 and hypoxia-inducible factor 1 α .	Placenta. 2021 Aug;111:1-9	Original Article
47	Ikesu R, Taguchi A, Kawana K, et al.	産婦人科	Prognosis of high-risk human papillomavirus-related cervical lesions: A hidden Markov model analysis of a single-center cohort in Japan.	Cancer Med. 2022 Feb;11(3):664-675.	Original Article
48	Mimura N, Nagamatsu T, Kawana K, et al.	産婦人科	.Suppression of human trophoblast syncytialization by human cytomegalovirus infection	Placenta. 2022 Jan;117:200-208	Original Article
49	Maebayashi A, Hayashi N, Kawana K, et al.	産婦人科	Safety and efficacy of microwave endometrial ablation for patients with previous uterine surgery: a pilot study.	J Obstet Gynaecol. 2022 Feb 16;1-6	Original Article

50	Koji Matsumoto	整形外科	A case of spinal cord transection for an intramedullary abscess containing gas	Journal of Orthopaedic Science • doi: 10.1016/j.jos.2021.10.019.	Case report
51	Takako Nagai	整形外科	Influence of potentially inappropriate medications on activities of daily living for patients with osteoporotic vertebral compression fractures: A retrospective cohort study.	Journal of Orthopaedic Science • 2021;26(3):448-452	Original Article
52	Koji Matsumoto	整形外科	Fatigue wear test comparing vitamin-E-blended crosslinked polyethylene and conventional polyethylene in a Posterior Dynamic Stabilization System of the spine in the laboratory	Journal of Orthopaedic Science • doi: 10.1016/j.jos.2021.02.012.	Original Article
53	Yoshiaki Tomizuka	整形外科	Partial Distal Biceps Avulsion Results in a Significant Loss of Supination Force	The Journal of Bone and Joint Surgery-American volume • 2021;103(9):812-819	Original Article
54	Hyunho Lee	整形外科	The medial tangent of the proximal tibia is a suitable extra-articular landmark in determining the tibial anteroposterior axis	BMC Musculoskeletal Disorders • 2021;22:346	Original Article

55	Takako Nagai	整形外科	Association Among Geriatric Nutritional Risk Index and Functional Prognosis in Elderly Patients with Osteoporotic Vertebral Compression Fractures	Indian Journal of Orthopaedics • 2021;56:338-344	Original Article
56	Takako Nagai	整形外科	Influence of potentially inappropriate medications on activities of daily living for patients with osteoporotic vertebral compression fractures: A retrospective cohort study	Journal of orthopaedic science • 2021;26:448-452	Original Article
57	Kentaro Sato	整形外科	miRNA-218 targets multiple oncogenes and is a therapeutic target for osteosarcoma	Oncology Reports • doi: 10.3892/or.2022.8303.	Original Article
58	Hyunho Lee	整形外科	The Combination of Modified Mitchell's Osteotomy and Shortening Oblique Osteotomy for Patients with Rheumatoid Arthritis: An Analysis of Changes in Plantar Pressure Distribution	Int J Environ Res Public Health • doi: 10.3390/ijerph18199948.	Original Article
59	Yamamuro S, Negishi H, Shijo K, et al.	脳神経外科	Treatment-responsive case of focal clivus IgG4-related hypertrophic pachymeningitis mimicking meningioma; case report.	Acta Neurol Belg. 2021 Oct; 121: 1395-7	Case report

60	Tasuoka J, Igarashi T, Kajimoto R, et al.	脳神経外科	High-dose-infliximab-associated Cerebral Venous Sinus Thrombosis: A Case Report and Review of the Literature.	Intern Med. 2021 Aug; 60: 2677-81	Case report
61	Sumi K, Otani N, Mori F, et al.	脳神経外科	Venous hypertension caused by a meningioma involving the sigmoid sinus: case report.	BMC Neurol. 2021 Mar; 21: 119	Case report
62	Sumi K, Suma T, Yoshida R, et al.	脳神経外科	Massive intracranial hemorrhage caused by intraventricular meningioma: case report.	BMC Neurol. 2021 Jan; 21: 25	Case report
63	Masuda S, Suzuki R, Kitano Y, et al.	病理診断科	Tissue Thickness Interferes With the Estimation of the Immunohistochemical Intensity: Introduction of a Control System for Managing Tissue Thickness	Applied Immunohistochemistry & Molecular Morphology. 2021 Feb, 29: 118-126	Original Article
64	Kobayashi H, Nakai T, Nakanishi Y, et al.	病理診断科	Phylogenetic analysis of combined lobular and ductal carcinoma of the breast	Moleculara Medicine repots 2021 Oct, 24: 718	Original Article

65	Uto K	病理診断科	Use of three-dimensional computed tomography to image archived fatty tissue of arrhythmogenic cardiomyopathy	Circulation Journal 2021 Sep, 85: 1896	Case report
66	Uto K	病理診断科	Inhibition of extracellular matrix integrity attenuates the early phase of aortic medial calcification in a rodent model	Atherosclerosis 2021 Feb, 319: 10-20	Original Article
67	Tsujimura R	病理診断科	Rosai-Dorfman disease of thymus with elevated serum anti-acetylcholine receptor antibody: a case report	Int J Clin Exp Pathol. 2021 Oct, 14: 1061-1064	Case report
68	Kashimura T, Nagasaki K, Horigome M et al	形成外科	A Novel Technique of Negative Pressure Wound Therapy for Pharyngeal Cutaneous Fistulas Around Tracheostomas.	J Craniofac Surg. 2021 Nov-Dec 01;32(8):e765-e767.	Original Article
69	Seimiya A, Morioka I, Okahashi A, et al.	小児科	Survey of infants hospitalized for respiratory syncytial virus disease in Tokyo, 2018.	Pediatrics International. 2021; 63 (2): 219-221.	Original Article

70	Suzuki J, Urakami T, Yoshida K, et al.	小児科	Association between scanning frequency of flash glucose monitoring and continuous glucose monitoring-derived glycemic makers in children and adolescents with type 1 diabetes.	Pediatrics International. 2021; 63 (2): 154-159.	Original Article
71	Yoshida K, Urakami T, Morioka I.	小児科	Glucagon stimulation test as a possible predictor of residual β -cell function.	Pediatrics International. 2021; 63 (5): 536-542.	Original Article
72	Tonouchi R, Okada T, Abe Y, et al.	小児科	Subclass distribution of low-density lipoprotein triglyceride and the clustering of metabolic syndrome components in Japanese children.	Pediatrics International. 2021; 63 (6): 664-670.	Original Article
73	Watanabe H, Kanemaru K, Hagikura K, Matsumoto T, Ayusawa M, Morioka I.	小児科	Soluble factors released by dedifferentiated fat cells reduce the functional activity of iPS cell-derived cardiomyocytes.	Cell Biology International. 2021; 45 (2): 295-304.	Original Article
74	Abe Y, Kusano C, Takano C, et al.	小児科	Association between Helicobacter pylori antibody-positive status and extra gastric diseases in Japanese junior high school students.	Pediatrics International. 2021; 63 (9): 1087-1094.	Original Article

75	Suzuki J, Urakami T, Morioka I.	小児科	Greater insulin resistance in short children born small-for-gestational age than in children with growth hormone (GH) deficiency at the early period of GH therapy.	Pediatrics International. 2021; 63 (10): 1180-1184.	Original Article
76	Nishimura K, Yamana K, Fukushima S, Fujioka K, Miyabayashi H, et al.	小児科	Comparison of two hepatitis B vaccination strategies targeting vertical transmission: A 10-year Japanese multicenter prospective cohort study.	Vaccines. 2021; 9 (1): 58.	Original Article
77	Aoki R, Nagano N, Okahashi A, et al.	小児科	Novel physique index for the screening of skeletal dysplasia at birth.	Children. 2021; 8 (5): 331.	Original Article
78	Ito M, Yagasaki H, Kanezawa K, et al.	小児科	Incidence and outcomes of refractory immune thrombocytopenic purpura in children: a retrospective study in a single institution.	Scientific Reports. 2021; 11 (1): 14263.	Original Article
79	Nagano N, Imaizumi T, Akimoto T, et al.	小児科	Clinical evaluation of a novel urine collection kit using filter paper in neonates: an observational study.	Children. 2021; 8 (7): 561.	Original Article

80	Noto T, Nagano N, Kato R, et al.	小児科	Natural-course evaluation of infants with positional severe plagiocephaly using a three-dimensional scanner in Japan: Comparison with those who received cranial helmet therapy.	Journal of Clinical Medicine. 2021; 10 (16): 3531.	Original Article
81	Okahashi A, Kobayashi M, Okuyama K, et al.	小児科	Survey of physician knowledge of congenital cytomegalovirus infection and clinical practices in Japan: A web-based survey.	Medicine. 2021; 100 (44): e27589.	Original Article
82	Shimizu S, Ayusawa M, Go H, et al.	小児科	Characteristics of Kawasaki disease patients during the COVID-19 pandemic in Japan: A single-center observational study.	Children. 2021; 8 (10): 913.	Original Article
83	Urakami T.	小児科	Effectiveness of a smartphone application on medication adherence in children with short stature receiving GH therapy: A multicenter prospective cohort study (GTL-App).	Clinical Pediatric Endocrinology. 2021; 30 (2): 85-92.	Original Article
84	Kishi I, Nagano N, Katayama D, et al.	小児科	Successful treatment of hyperbilirubinemia by monitoring serum unbound bilirubin in an extremely preterm infant with bacterial infection.	Clinical Laboratory. 2021; 67 (1): 183-186.	Case report

85	Kasuga Y, Nishimura K, Go H, et al.	小児科	Severe olfactory and gustatory dysfunctions in a Japanese pediatric patient with coronavirus disease (COVID-19).	Journal of Infection and Chemotherapy. 2021; 27(1): 110-112.	Case report
86	Takano C, Ishige M, Ogawa E, et al.	小児科	Nutrient management of the intrapartum period in maternal maple syrup urine disease.	Molecular Genetics and Metabolism Reports. 2021; 26: 100711.	Case report
87	Shimizu S, Morohashi T, Takahashi Y, et al.	小児科	IgA nephropathy in a patient with an MYH9-related disorder.	Pediatrics International. 2021; 63 (11): 1398-1400.	Case report
88	Sato Y, Aoki R, Nagano N, et al.	小児科	Unique and abnormal subependymal pseudocysts in a newborn with mitochondrial disease.	Science Progress. 2021; 104 (2): 368504211011873.	Case report
89	Tamura T, Yagasaki H, Nakahara E, et al.	小児科	A Filipino infant with severe neutropenia owing to SRP54 mutations was successfully treated with ethnically mismatched cord blood transplantation from a Japanese cord blood bank.	Annals of Hematology. 2021; 100 (11): 2859-2860.	Case report

90	Ueno M, Yagasaki H, Hirai M, et al.	小児科	Four-year remission despite umbilical cord graft rejection in juvenile myelomonocytic leukemia with PTPN11 mutations.	Pediatric Blood & Cancer. 2021; 68 (8): e29078.	Case report
91	Shoji Y, Ida S, Kubo T, et al.	小児科	Diagnostic pitfall; Mosaic Turner syndrome with a 46, XY lymphocyte karyotype initially diagnosed as 46, XY DSD.	Pediatrics International. 2021; 63 (9): 1122-1123.	Case report
92	Yoshida K, Mushimoto Y, Tanase-Nakao K, et al.	小児科	A case report with functional characterization of a HNF1B mutation (p.Leu168Pro) causing MODY5.	Clinical Pediatric Endocrinology. 2021; 30 (4): 179-185.	Case report
93	Morioka I, Nakamura H.	小児科	Treatment criteria for infants with hyperbilirubinemia in Japan.	Seminars in Perinatology. 2021; 45 (1): 151352.	Review
94	Kasuga Y, Kanezawa K, Shimizu S, et al.	小児科	What is the difference in severity of pediatric coronavirus disease 2019?	Acta Paediatrica. 2021; 110 (5): 1687-1688.	Review

95	Ayusawa M, Morioka I, Tremoulet A.	小児科	Editorial: Kawasaki Disease.	Frontiers in Pediatrics. 2021; 8: 631157.	Review
96	Takano C, Grubbs B, Ishige M, et al.	小児科	Clinical perspective on the use of human amniotic epithelial cells to treat congenital metabolic diseases with a focus on maple syrup urine disease.	Stem Cells Translational Medicine. 2021; 10 (6): 829-835.	Review
97	Enomoto. K	乳腺内分泌外科	Survival with Surgery is Superior to Survival Without Surgery in Breast Cancer Patients Aged 85 years or Older: A retrospective Study	Am Surg 2021 Nov; 87(11): 1746-1751	Original Article
98	Kuwana T, Kinoshita K, Hirabayashi M, et al	救命救急センター	PMX-DHP Therapy for Dyspnea and Deoxygenation in Severe COVID-19 Pneumonia: A Case Series	Infect Drug Resist. 2021 Apr 6;14:1305-1310.	Case report
99	Sakurai A, Oda J, Muguruma T, et al	救命救急センター	Revision of the Protocol of the Telephone Triage System in Tokyo, Japan	Emerg Med Int . 2021 Apr 21;2021:8832192.	Original Article

100	Ishihara H	糖尿病代謝内科	Metabolism-secretion coupling in glucose-stimulated insulin secretion	Diabetol Int. 2022 Mar; 13: 463-470	Review
101	Kosuda M, Watanabe K, Koike M	糖尿病代謝内科	Glucagon responses to glucose challenge in patients with idiopathic postprandial syndrome.	J Nippon Med Sch. 2022 Feb; 89: 102-107	Original Article
102	Watanabe K, Hada Y, Ishii K	糖尿病代謝内科	Aortic arch calcification with pericardial fat mass detected on single chest X-ray image is closely associated with the predictive variables of future cardiovascular disease.	Heart Vessels. 2022 Apr; 37: 654-664/Epub 2021 Sep	Original Article
103	Koike M, Saito H, Kohno G	糖尿病代謝内科	Effects of GLP-1RA and SGLT2i, alone or in combination, on mouse models of type 2 diabetes representing different disease stages.	Int J Mol Sci. 2021 Oct; 22: 11463	Original Article
104	Fujishiro M, Ishihara H, Ogawa K	糖尿病代謝内科	Impact of plasma xanthine oxidoreductase activity on the mechanisms of distal symmetric polyneuropathy development in patients with type 2 diabetes.	Biomedicines. 2021 Aug; 9: 1052/Epub 2021 Aug(オンライン)	Original Article

105	Ichikawa C, Tanaka S, Takubo M	糖尿病代謝内科	Tuberculosis relapse in the epididymis after the completion of nine months of anti-tuberculosis chemotherapy in a patient with poorly controlled diabetes mellitus.	Ther Clin Risk Manag. 2021 May; 17: 463-470	Original Article
106	Tsuchida S, Umamura H, Murata S, et al.	臨床検査医学科	Effect of humidity during sample preparation on bacterial identification using matrix-assisted laser desorption/ionization time-of-flight mass spectrometry.	J Chromatogr B Analyt Technol Biomed Life Sci. 2021 Jun; 1176: 122780	Original Article
107	Tsuchida S, Nakayama T	臨床検査医学科	Ubiquitination and Deubiquitination in Oral Disease.	International Journal of Molecular Science. 2021 May; 22: 5488	Review
108	Yoshikawa M, Asaba K	臨床検査医学科	Educational Attainment Decreases the Risk of COVID-19 Severity in the European Population: A Two-Sample Mendelian Randomization Study.	Frontiers in Public Health. 2021 Jun; 9: 673451	Original Article
109	Yoshikawa M, Asaba K, Nakayama T	臨床検査医学科	Estimating causal effects of atherogenic lipid-related traits on COVID-19 susceptibility and severity using a two-sample Mendelian randomization approach	BMC Medical Genomics. 2021 Nov; 14: 269	Original Article

110	Yoshikawa M, Asaba K, Nakayama T	臨床検査医学科	Causal effect of atrial fibrillation/flutter on chronic kidney disease: A bidirectional two-sample Mendelian randomization study	PLOS ONE. 2021 Dec; 16: e0261020	Original Article
111	Tsuchida S, Nakayama T	臨床検査医学科	MALDI-Based Mass Spectrometry in Clinical Testing: Focus on Bacterial Identification	Appl. Sci. 2022 Mar; 12: 2814	Review
112	Junya Hanaguri, Harumasa Yokota, Akifumi Kushiya, et al	眼科	Beneficial Effect of Long-Term Administration of Supplement With <i>Trapa Bispinosa</i> Roxb. and Lutein on Retinal Neurovascular Coupling in Type 2 Diabetic Mice	Frontiers in physiology. 2022 Feb 24;13:788034.	Original Article
113	Junya Hanaguri, Harumasa Yokota, Akifumi Kushiya, et al	眼科	The Effect of Sodium-Dependent Glucose Cotransporter 2 Inhibitor Tofogliflozin on Neurovascular Coupling in the Retina in Type 2 Diabetic Mice	International journal of molecular sciences. 2022 Jan 25;23(3):1362	Original Article
114	Junya Hanaguri, Noriaki Nagai, Harumasa Yokota, et al	眼科	Fenofibrate Nano-Eyedrops Ameliorate Retinal Blood Flow Dysregulation and Neurovascular Coupling in Type 2 Diabetic Mice	Pharmaceutics. 2022 Feb 9;14(2):384	Original Article

115	Harumasa Yokota , Hiroki Hayashi , Junya Hanaguri ,et al	眼科	Effect of prorenin peptide vaccine on the early phase of diabetic retinopathy in a murine model of type 2 diabetes	PloS one.2022 Jan 18;17(1):e0262568	Original Article
116	Yukiko Shiraki, Jun Shoji , Noriko Inada,et al	眼科	IL-1 α antibody inhibits dose- dependent exacerbation of eosinophilic inflammation by crude house-dust-mite antigen in the conjunctiva of an atopic keratoconjunctivitis mouse model	Current eye research.2021 Aug;46(8):1115-1124.	Original Article
117	Takahiko Hayashi , Hiroki Masumoto , Hitoshi Tabuchi ,et al	眼科	A deep learning approach for successful big-bubble formation prediction in deep anterior lamellar keratoplasty	Scientific reports.2021 Sep 17;11(1):18559.	Original Article
118	Junya Hanaguri , Harumasa Yokota, Masahisa Watanabe ,et al	眼科	Retinal blood flow dysregulation precedes neural retinal dysfunction in type 2 diabetic mice	Scientific reports.2021 Sep 15;11(1):18401.	Original Article
119	Takahiko Hayashi , Hidenori Takahashi, Satoru Inoda,et al	眼科	Aqueous humour cytokine profiles after Descemet's membrane endothelial keratoplasty	Scientific reports.2021 Aug 23;11(1):17064.	Original Article

120	Mariko Horinaka , Jun Shoji , Akiko Tomioka, et al	眼科	Alterations in Mucin-Associated Gene Expression on the Ocular Surface in Active and Stable Stages of Atopic and Vernal Keratoconjunctivitis	Journal of ophthalmology.2021 May 31;2021:9914786.	Original Article
121	Takahiko Hayashi , Sebastian Siebelmann	眼科	Rescue Technique to Solve Postoperative Refractory Double Anterior Chamber in Deep Anterior Lamellar Keratoplasty	Cornea.2022 Mar 1;41(3):374-378	Case report
122	Akira Hirota , Jun Shoji, Noriko Inada, et al	眼科	Evaluation of Clinical Efficacy and Safety of Prolonged Treatment of Vernal and Atopic Keratoconjunctivitis Using Topical Tacrolimus	Cornea.2022 Jan 1;41(1):23-30	Original Article
123	Harumasa Yokota, Taiji Nagaoka , Hidetaka Noma, et al	眼科	Role of ICAM-1 in impaired retinal circulation in rhegmatogenous retinal detachment	Scientific reports.2021 Jul 28;11(1):15393.	Original Article
124	Daisuke Sato	呼吸器外科	Rosai-Dorfman disease of thymus with elevated serum anti-acetylcholine receptor antibody	International Journal of Clinical and Experimental Pathology	Case report

125	Gon Y, Nishi K, Sato K, et al.	呼吸器内科	Efficacy and safety of glycopyrrolate/formoterol fumarate metered dose inhaler delivered using co-suspension delivery technology in Japanese patients with moderate-to-very severe chronic obstructive pulmonary disease.	Respiratory Investigation. 2021 Jan; 59(1): 135-144.	Original Article
126	Kozu Y, Kurosawa Y, Yamada S, et al.	呼吸器内科	Cluster analysis identifies a pathophysiologically distinct subpopulation with increased serum leptin levels and severe obstructive sleep apnea.	Sleep Breath. 2021 Jun;25(2):767-776.	Original Article
127	Fukuda A, Toyoshima S, Yamada S, et al.	呼吸器内科	Enzymatic activity of ACE2 regulates type 2 airway inflammation in mice.	Allergy. 2021 Jun;76(6):1913-1917.	Original Article
128	Shaku F, Yada Y, Tsutsumi M, et al.	呼吸器内科	Characterising end-of-life decision-making of life-sustaining treatment among Japanese nurses.	Int J Palliat Nurs. 2021 Jun 2;27(4):213-218.	Original Article
129	Gon Y, Ohyanagi N, Kobayashi A.	呼吸器内科	The association between control level and self-reported treatment adherence across different treatment types in Japanese asthma patients.	Respir Investig. 2021 Jul;59(4):454-463.	Original Article

130	Hiranuma H, Ishibashi N, Maebayashi T, et al.	呼吸器内科	Whole-brain Radiation Therapy for Intracranial Metastases as Initial or Late Treatment.	In Vivo. 2021 Jul-Aug;35(4):2445-2450.	Original Article
131	Gon Y, Ishii T, Lawrence D, et al.	呼吸器内科	Once-daily, single-inhaler indacaterol/mometasone versus twice-daily salmeterol/fluticasone in Asian patients with inadequately controlled asthma: post hoc pooled analysis from PALLADIUM and IRIDIUM studies.	J Asthma. 2021 Aug 24:1-11.	Original Article
132	Shaku F, Tsutsumi M, Nakamura A, et al.	呼吸器内科	Factors associated with surrogate families' life-sustaining treatment preferences for patients at home or in a geriatric health service facility: A cross-sectional study. Palliative & Supportive Care	First View Published online by Cambridge University Press: 02 September 2021, pp. 1-8.	Original Article
133	Matsuzaki H, Makiyama K, Hasegawa H	耳鼻科	Human Papillomavirus Vaccination as an Adjuvant Therapy for Recurrent Respiratory Papillomatosis	Additional Case Series. Journal of Voice: 29 September S0892-1997(21)00258-7. doi: 10.1016/j.jvoice.2021.07.019. (オンライン)	Original Article
134	Hasegawa H, Matsuzaki H, Makiyama K他	耳鼻科	Inferior Surface Leukoplakia of Vocal Folds: Risk of Recurrence	A Preliminary Study. Ear Nose Throat Journal 9 February, 2021	Original Article
135	Miura R, Matsuzaki H, Suzuki H他	耳鼻科	Effect of a Single Injection of Basic Fibroblast Growth Factor into the Vocal Folds	A 36-Month Clinical Study. J Voice. DOI: 10.1016/j.jvoice.2021.01.015	Original Article
136	Miura R, Nakamura K, Matsuzaki H他	耳鼻科	A Case of Parotid Gland Tuberculosis Suspected to be Malignant Tumor	Indian Journal of Surgery. DOI: 10.1007/s12262-021-02902-2, 2021.5.13	Case report
137	Katano H, Hasegawa H, Matsuzaki H他	耳鼻科	Thyroid hyalinizing trabecular adenoma with a high thyroglobulin level	a case report. Surgical Case Report 2021 31 July, 2021(7):rjab324. doi: 10.1093/jscr/rjab324. eCollection 2021 Jul.	Case report

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名・出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	鈴木正泰	精神神経科	気分障害における過眠への対応	精神神経学雑誌, 123: 424-430, 2021	Review
2	横瀬宏美	精神神経科	摂食障害	日大医学雑誌, 80: 195-198, 2021	Review
3	斎藤かおり, 横瀬宏美, 鈴木正泰	精神神経科	働く女性の睡眠健康 — 睡眠衛生指導の重要性—	睡眠医療, 15: 341-346, 2021	Review
4	鈴木正泰	精神神経科	気分障害に合併する不眠・過眠の臨床的意義と治療戦略	カレントセラピー, 39: 222-227, 2021	Review
5	鈴木正泰	精神神経科	睡眠障害診療における Personalized Medicine	睡眠医療, 15: 97-100, 2021	Review

6	鈴木正泰	精神神経科	レム睡眠行動障害, 概日リズム睡眠・覚醒障害	今日の治療指針 2022, 1097-1100, 2022	Others
7	Suzuki T	麻酔科	スガマデクスの適正な使用における筋弛緩モニタの意義	日本臨床麻酔学会誌 2021; 41: 174-9	Review
8	Kijima M, Ishiwata D, Itaya T, et al.	麻酔科	麻酔科医も意識すべきリバウンドペイン	臨床麻酔 2021;45(9):1219-24	Review
9	朝倉菜由, 車谷紋乃, 藤田英樹, 他	皮膚科	表皮囊腫様の構造を呈した小児伝染性軟属腫の1例.	皮膚科の臨床 2021; 63(9): 1431-1434.	Case report
10	長岡麻美, 車谷紋乃, 榎村勉, 他	皮膚科	顔面に有棘細胞癌と基底細胞癌が併発した1例.	臨床皮膚科 2022; 76(1): 59-65.	Case report
11	葉山惟大	皮膚科	【蕁麻疹と蕁麻疹に似た疾患-病型鑑別からはじめよう】 (Part1) 特発性の蕁麻疹(case2) 慢性蕁麻疹.	Visual Dermatology 2021; 20(6): 566-569	Review
12	葉山惟大	皮膚科	【診察室での患者さんの質問に答えます】 慢性蕁麻疹 一生治らないのでしょうか.	皮膚科の臨床 2021; 63(6): 814-815	Others
13	井汲菜摘, 藤田英樹	皮膚科	【診察室での患者さんの質問に答えます】 掌蹠膿疱症 タバコを止めれば治りますか.	皮膚科の臨床2021; 63(6): 848-849.	Others

14	葉山惟大	皮膚科	【古くて新しい自己炎症性角化症】(Part2.) 自己炎症性角化症の治療(治療7) 自己炎症性角化症としての化膿性汗腺炎に対する治療.	Visual Dermatology 2021; 20(7): 740-743.	Review
15	藤田英樹	皮膚科	【乾癬を見直す～臨床薬理学の観点から～】乾癬の最新治療 ②低分子化合物.	Pharma Medica 2021; 39(10): 53-56.	Review
16	藤田英樹	皮膚科	新・皮膚科セミナーウム 光線療法を活かし方 その基本、照射方法と応用 光線療法総論～基本事項の理解と実践～.	日本皮膚科学会雑誌 2021; 131(11): 2393-2398.	Review
17	藤田英樹	皮膚科	【エキスパートから学ぶ「再発抑制・寛解維持に悩む疾患」(Part1.) 炎症性疾患を中心に (Opinion2-1) 尋常性乾癬—私の考え方—(1).	Visual Dermatology 2021; 20(11): 1118-1121.	Review
18	葉山惟大, 井汲菜摘	皮膚科	【エキスパートから学ぶ「再発抑制・寛解維持に悩む疾患」(Part1.) 炎症性疾患を中心に (opinion 3-2) 掌蹠膿疱症(PA0を含む) —私の考え方—(2).	Visual Dermatology 2021; 20(11): 1134-1137.	Review
19	藤田英樹	皮膚科	【あらためて学ぶ。薬疹と皮膚障害】 2. 知っておくべき薬物障害 ④ 乾癬と薬疹.	皮膚科の臨床 2021; 63(12): 1801-1807.	Review
20	藤田英樹	皮膚科	【2021年なにあった? -くすり・ガイドライン・社会etc...-】 III. Catch Up! 新薬・新規効能・新剤形 6. TOPICS: 増える! 乾癬治療の選択肢.	薬局 2021; 72(13): 3569-3574.	Review
21	葉山惟大	皮膚科	掌蹠膿疱症で効果が期待される新薬spesolimab.	皮膚科 2022; 1(2): 257-260.	Review

22	藤田英樹	皮膚科	小児乾癬に対する secukinumab の効果と安全性.	皮膚科 2022; 1(2): 261-265.	Review
23	藤田英樹	皮膚科	【実践！皮膚疾患への光線療法—総集編—】 実践！アトピー性皮膚炎に対するエキシマライト療法は？	Monthly book Derma 2022; 319: 66-72.	Review
24	藤田英樹	皮膚科	【皮膚リンパ腫の病態, 診断と治療】 臨床 8) 皮膚白血病の基本事項.	皮膚科 2022; 1(3): 356-361.	Review
25	Masuda S	病理診断科	乳腺腫瘍—WHO分類第5版改訂のポイント— WHO分類第5版と乳癌取扱い規約第18版との比較	病理と臨床. 2021 Apr, 39: 385-391	Review
26	榎村勉、副島一孝	形成外科	形成外科領域におけるロボットサージャリー	日大医学雑誌(0029-0424)80巻6号 Page331-333(2021.12)	Original Article
27	榎村勉、副島一孝	形成外科	【熱傷治療の進歩】ケロイド・肥厚性瘢痕に対する再生医療導入の展望	医学のあゆみ(0039-2359)280巻12号 Page1237-1240(2022.03)	Original Article
28	榎村勉、副島一孝	形成外科	【顔面骨骨折を知り尽くす】顔面骨骨折におけるアプローチ方法の要点	PEPARS(1349-645X)180号 Page11-18(2021.12)	Original Article
29	大澤大和, 春日悠岐, 呉英俊, 他	小児科	新型コロナウイルス検査を行った小児の臨床背景: 単独施設における検討.	小児感染免疫 33 (4) : 343-350, 2021	Original Article

30	森岡一朗, 戸石悟司, 日下隆, 他	小児科	新型コロナウイルス感染(疑い)の妊婦から出生した新生児の診療・管理体制に関する調査(要約).	日本小児科学会雑誌 125(5) : 844-845, 2021	Original Article
31	森岡一朗, 長野伸彦, 桃木恵美子, 他	小児科	GOD-POD-UnaG法を用いた血中アンパウンドビリルビン自動測定機器の開発.	日本大学医学部総合医学研究所紀要 9 : 10-12, 2021	Original Article
32	岡橋 彩, 長野伸彦, 今泉隆行, 他	小児科	カラー静止画像を用いた新生児ビリルビン測定システムの実用化に向けた臨床研究.	日本大学医学部総合医学研究所紀要 9 : 20-22, 2021	Original Article
33	浦上達彦	小児科	小児糖尿病健診の実施成績.	東京都予防医学年報2021年度版50: 30-33, 2021	Original Article
34	堀江未央, 春日悠岐, 小川えりか, 他	小児科	ムンプスワクチン接種後に発症した可逆性脳梁膨大部病変を伴ったムンプス髄膜脳炎の1例.	小児科臨床 74: 289-293, 2021	Case report
35	一和多信孝, 春日悠岐, 高野智圭, 他	小児科	ヒトパレコウイルス4型による敗血症様症候群の新生児例.	日大医学雑誌 80 (1) : 41-44, 2021	Case report
36	大海なつき, 青木亮二, 加藤亮太, 他	小児科	水泳時に増悪する後頭部痛を認めたChiari奇形I型の男児例.	小児科臨床 74 (5) : 569-572, 2021	Case report
37	山瀬聡一, 平井麻衣子, 谷ヶ崎博, 他	小児科	面会に際しきょうだいへの心理的影響に関する議論を多職種で行った小児がん終末期の1女児例.	小児血液・がん学会雑誌 58(3) : 315-319, 2021	Case report

38	田邊聡美, 齊藤勝也, 橋本真, 他	小児科	デキサメタゾン多量内服による医原性クッシング症候群の2例.	埼玉医学会誌 55(1) : 325-330, 2021	Case report
39	向井千尋, 殿内亮介, 吉田圭, 他	小児科	パセドウ病治療後に低Ca血症が顕在化した22q11.2欠失症候群の1例.	日本内分泌学会雑誌 97 (Suppl.Update) : 53-55, 2021	Case report
40	渡邊健太郎	糖尿病代謝内科	高齢2型糖尿病患者でのオステオカルシンの動脈硬化信連および血管石灰化に与える影響に関する研究	日本老年医学会誌. 2021 4; 58: 315-317	Original Article
41	河内 利賢	呼吸器外科	原発性肺癌に対する標準術式	日大医学雑誌	Case report
42	権 寧博, 丸岡秀一郎, 水村賢司	呼吸器内科	気管支喘息の吸入治療薬; 特集 内科医に必要な呼吸器診療のコツ.	日本内科学会雑誌. 2021. 6; 第110巻 第6号:1071-1075.	Review
43	丸岡秀一郎	呼吸器内科	喘息診療への心身医学的アプローチ 喘息診療における心身医学的診断.	アレルギーの臨床. 2021;41(10):857-60.	Review
44	福田麻佐美, 豊島翔太, 丸岡秀一郎, et al.	呼吸器内科	アンジオテンシン変換酵素2の酵素活性によるハウスダスト誘導性喘息の制御.	臨床免疫・アレルギー科. 2021;76(3):235-239.	Review
45	浅井康夫, 清水哲男, 権 寧博	呼吸器内科	用語解説 クライオバイオプシー (cryobiopsy) (解説)	日本気管食道科学会会報 2021. 4 (0029-0645) 72巻2号 Page107-108.	Others

46	浅井康夫, 權寧博	呼吸器内科	【呼吸器症候群(第3版)-その他の呼吸器疾患を含めて-(II)】アレルギー性肺炎患喘息、気道疾患後鼻漏症候群(解説/特集)	日本臨床 2021.09. (0047-1852) 別冊呼吸器症候群II Page25-28.	Others
47	清水哲男, 權寧博	呼吸器内科	【COVID-19の病態・診断・治療 現場の知恵とこれからの羅針盤】(VI章)各施設はどのようにCOVID-19を診断・治療していたのか 各施設の対応 日本大学医学部附属板橋病院.	吸器ジャーナル別冊 : 2021. 183-187.	Others
48	松崎洋海, 牧山 清, 平井良治	耳鼻科	再発性気道乳頭腫症に対するHPVワクチン併用手術治療の効果	嚥下医学 10(2): 209-217, 2021	Original Article
49	木村優介, 加我君孝	耳鼻科	Galvanic VEMPによって明らかとなったAuditory Neuropathyの前庭神経障害	Otology Japan, 31: 161-167, 2021	Original Article
50	釜谷まりん, 樋口雄將, 中村一博他	耳鼻科	嚥下外来における過去3年間の臨床学的検討	嚥下医学 10(2): 209-217, 2021	Original Article
51	原 将太, 岸野明洋, 新藤秀史他	耳鼻科	耳管開放症診断基準案2016による耳管開放症確実例の検討	Otology Japan31(1)50-57, 2021.	Original Article
52	三浦伶央, 中村一博, 鈴木啓誉他	耳鼻科	甲状軟骨形成術2型の再手術において開大幅2.0mm以下にする工夫	日気食会報72: 231-235, 2021	Case report
53	平野 良, 嶋原俊太郎, 野村泰之他	耳鼻科	聴力改善がみられた脳表へモジデリン沈着症による感音難聴症例	耳鼻と臨床(0447-7227)67(5), 301-306, 2021.09	Case report

54	大島猛史	耳鼻科	耳管開放症に対する処置 1.	JOHNS 東京医学社;37(1):99-102, 2021.	Review
55	大島猛史	耳鼻科	耳管開放症の診断と治療 におけるインフォーム ド・コンセント	耳鼻咽喉科・頭頸部外科 93(5):12-18, 2021.	Review
56	大島猛史	耳鼻科	耳管疾患の診療における 世界的な動向	ENTONI 255:41-48, 2021.	Review
57	大島猛史	耳鼻科	耳管病変に対する手術	ENTONI 263:1-6, 2021	Review
58	大島猛史	耳鼻科	鼻声	日気食会報 72(5):288-289, 2021.	Review
59	松崎洋海	耳鼻科	【声帯麻痺の手術】反回 神経麻痺に対する喉頭注 入術 注入材料の変遷と 効果(解説/特集).	喉頭 33巻1号, pp1-5, 2021	Review
60	松崎洋海	耳鼻科	声帯嚢胞(解説).	日本気管食道科学会会報72巻2 号, pp75-79, 2021.	Review
61	松崎洋海	耳鼻科	【声とことばの異常-マ ネージメントのポイント】 機能的発声障害 心 因性失声症のマネー ジメント(解説/特集)	JOHNS 37巻6号, pp568-570, 2021.	Review

62	嶋原俊太郎, 木村優介	耳鼻科	【聴覚検査のポイント-早期発見と適切な指導-】補聴器適応決定のポイント	ENTONI, pp. 30-36, 全日本病院出版会, 東京, 2021.	Review
63	野村泰之、岸野明洋	耳鼻科	良性発作性頭位めまい症. ~最新知識からめまい症例を診る! 症例から診るめまい診療	JHONS37(1)25-31, 2021.	Review
64	野村泰之	耳鼻科	【聴覚検査のポイント-早期発見と適切な指導-】補聴器適応決定のポイント.	ENTONI, pp. 30-36, 全日本病院出版会, 東京, 2021	Review
65	中村一博	耳鼻科	つまりをなおす甲状軟骨形成術2型とたかさをかえる甲状軟骨形成術3型4型	福耳会ニュース152: 6-11, 2021.	Review
66	中村一博	耳鼻科	変声障害と性同一性障害に対する喉頭枠組み手術	喉頭33: 163-167, 2021.	Review
67	田中真琴	耳鼻科	【微量元素欠乏(亜鉛、セレン等)と疾患】味覚障害と微量元素 亜鉛補充療法の有効性を中心に	Medical Science Digest47(3): 131-134, 2021	Review
68	田中真琴	耳鼻科	【患者満足度up! 耳鼻咽喉科の適切なインフォームド・コンセント】味覚障害の診断と治療におけるインフォームド・コンセント	ENTONI255: 26-33, 2021.	Review
69	田中真琴	耳鼻科	【チャートでみる耳鼻咽喉科診療】症状から診断へ 口腔・咽喉頭・頸部領域 味覚異常	JOHNS37(9): 989-993, 2021.	Review

70	田中真琴	耳鼻科	【内科医が知っておくべき高齢者の感覚器障害】 高齢者の味覚障害	老年内科4(2) : 150-156, 2021.	Review
71	木村 優介, 中村 一博	耳鼻科	【耳鼻咽喉科外来処置での局所麻酔】局所麻酔で行う頸部小手術 麻酔のポイントと手技	ENTONI264: 59-66, 2021	Review
72	木村優介, 加我君孝	耳鼻科	側頭骨組織病理標本によるヒト胎生期の内耳発生と18トリソミー症例の内耳形態の特徴	Otology Japan, 31 390-396, 2021.	Review
73	野村泰之	耳鼻科	コロナ禍における花粉症診療のポイント	日本医事新報2021年3月13日号	Others
74	野村泰之	耳鼻科	傾向と対策: コロナ禍の花粉症ニューノーマル	豊橋市医師会会報824:63-64, 2021.	Others
75	田中真琴	耳鼻科	今日の治療指針2021(福井次矢編)	味覚障害, pp1635-1636, 医学書院, 2021, 東京	Others

計75件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 ①日本大学医学部附属板橋病院臨床研究倫理審査委員会内規 ②人を対象とする生命科学・医学系研究に関する標準業務手順書 ③人を対象とする生命科学・医学系研究における重篤な有害事象の取扱いに関する手順書 ④人体から取得された試料及び情報等の保管並びに安全管理に関する手順書 ⑤臨床研究倫理審査委員会 標準業務手順書 ⑥生命科学・医学系指針における研究の実施許可及び報告の手順	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年11回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 日本大学利益相反マネジメント内規	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年2回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年4回
・ 研修の主な内容 臨床研究倫理審査委員会委員講習	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

高度医療に対する研修を事項するため、医学部の学系・分野と協力しながら、専門医取得のための後期臨床研修プログラムを各診療科で作成している。
また、歯科についても初期臨床研修修了後、大学院への進学及び後期研修に向けての専門領域に係る研修も可能となっている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	191.5人
-------------	--------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
高山忠輝	内科 外科	部長	32年	
權寧博	呼吸器内科	部長	29年	
中村英樹	リウマチ科	部長	30年	
八田善弘	血液内科 腫瘍内科	部長	39年	
阿部雅紀	腎臓・内分泌内科	部長	25年	
木暮宏史	消化器・肝臓内科	部長	21年	
石原寿光	糖尿病・代謝内科	部長	34年	
中嶋秀人	脳神経内科	部長	34年	
奥村恭男	循環器内科	部長	23年	
丸岡秀一郎	心療内科	部長	26年	
鈴木正泰	精神科	部長	20年	
森岡一朗	小児科 新生児内科	部長	24年	
藤田英樹	皮膚科	科長	23年	
岡村行泰	消化器外科	部長	22年	
田中正史	心臓血管外科	部長	26年	
櫻井裕幸	呼吸器外科	部長	28年	
越永従道	小児外科	部長	39年	
多田敬一郎	乳腺・内分泌外科	部長	30年	
副島一孝	形成外科	部長	34年	
吉野篤緒	脳神経外科	部長	36年	
中西一義	整形外科	部長	28年	
新見昌央	リハビリテーション科	部長	13年	
川名敬	産婦人科	部長	29年	
高橋悟	泌尿器科	部長	37年	
山上聡	眼科	部長	34年	
大島猛史	耳鼻咽喉科 頭頸部外科	部長	36年	

岡田真広	放射線診断科 放射線治療科	部長	26年	
鈴木孝浩	麻酔科 疼痛緩和外科	部長	32年	
中山智祥	臨床検査科	部長	34年	
増田しのぶ	病理診断科	部長	37年	
木下浩作	救急科	部長	35年	
陳和夫	呼吸器内科 精神科	部長	41年	
北野尚孝	歯科口腔外科	部長	22年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

① 医療安全研修会（医療安全ワークショップ）

② セーフティマネジャー講習会

「令和 2 年度活動報告」

「転倒転落予防ワーキンググループ設置について」

・研修の期間・実施回数

① 令和 3 年 1 2 月 1 0 日（金） 年 1 回

・研修の参加人数

① 1 3 名

② 2 5 7 名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

個人情報保護と守秘義務について（e-ラーニング研修）

・研修の期間・実施回数

令和 3 年 6 月 1 0 日（木）～同年 7 月 3 1 日（月）・年 1 回実施

・研修の参加人数

2, 8 5 1 名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

該当なし

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 高橋悟	
管理担当者氏名	事務長 安中太 庶務課長 田村剛史, 会計課長 菰澤雅幸, 資材課長 石橋慶一, 医事課長兼病歴課長 川原浩貴, 医療情報課長 藤井教智, 医薬品安全管理者 福島栄, 医療機器安全管理責任者 岡本一彦, 医学部庶務課長 小林勝幸	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	事項 規則第二十一条の第三第二項に掲げる	病院日誌	庶務課
		各科診療日誌	病歴課, 医療情報課
		処方せん	病歴課, 医療情報課
		手術記録	病歴課, 医療情報課
		看護記録	病歴課, 医療情報課
		検査所見記録	病歴課, 医療情報課
		エックス線写真	病歴課, 医療情報課
		紹介状	病歴課, 医療情報課
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	病歴課, 医療情報課
			日別, 年度別, 種類別に管理している。 診療録については, 「日本大学医学部附属板橋病院・病歴管理内規」において, 保管場所を「病歴課内, その他医学部内指定場所で保管する」とした上で, 「定められた保管場所以外に持ち出さないこと」としている。 また, 官公庁からの依頼については, 病院長の許可による。
病院の管理及び運営に関する諸記録	掲げる事項 規則第二十一条の第三第三項に	従業者数を明らかにする帳簿	医学部庶務課, 庶務課
		高度の医療の提供の実績	医事課, 当該診療科
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課, 当該診療科
		高度の医療の研修の実績	医学部庶務課
		閲覧実績	医事課, 病歴課, 庶務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課, 当該診療科
	に掲げる事項 規則第一条の十一第一項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課, 薬剤部, 庶務課
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室, 庶務課
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染予防対策室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染予防対策室，庶務課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染予防対策室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染予防対策室
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部，医療安全管理室，庶務課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学技士室，中央放射線部，庶務課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学技士室，中央放射線部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学技士室，中央放射線部
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学技士室，中央放射線部		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室，庶務課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染予防対策室，庶務課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課，庶務課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	病歴課，庶務課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理室，庶務課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	執行部会，高難度新規医療技術担当部門
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	執行部会，薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理室，庶務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理室，感染予防対策室，庶務課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室，医事課，庶務課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理室，医事課，庶務課
		職員研修の実施状況	医療安全管理室，感染予防対策室，庶務課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理室
管理者が有する権限に関する状況	法人本部，医学部庶務課，庶務課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	法人本部，医学部庶務課，庶務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	法人本部，医学部庶務課，庶務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	事務長 安中太	
閲覧担当者氏名	庶務課長 田村剛史, 会計課長 菰澤雅幸, 資材課長 石橋慶一, 医事課長兼病歴課長 川原浩貴, 医療情報課長 藤井教智, 医学部庶務課長 小林勝幸	
閲覧の求めに応じる場所	会議室	
閲覧の手続の概要 病院長宛に依頼文書・照会文書を送付いただき、その諾否を執行部会議で判断する。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	3	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	1	件
	地方公共団体	延	2	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <p>日本大学医学部附属板橋病院は患者の生命の尊厳と安全を確保し，常に高度で先進的な医療を提供する特定機能病院として，安全管理体制の強化を図るため，平成12年3月に医療事故防止マニュアルを作成し，現在まで以下の指針及び完全管理体制を確保するための委員会並びに医療事故発生時の対応方法をマニュアル化し整備した。</p> ① 医療法に基づいた医療安全管理に関する基本方針 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全管理指針（基本理念及び安全管理指針）（平成12年3月制定，令和4年6月改定） ② 安全管理組織運営 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全管理室運営規則（平成16年1月制定，令和元年7月改定） ・ セーフティマネジャーに関する規則（平成16年1月制定，平成29年4月定） ・ 医療安全ワーキンググループ設置規約（平成18年4月制定，平成26年4月改定） ・ セーフティマネジャーによる事例検討会に関する規約（平成25年3月制定） ③ 安全管理体制の確保のための委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全管理委員会規則（平成12年5月制定，令和4年8月改定） ・ 特別症例検討委員会規則（平成12年5月制定，平成27年6月改定） ・ 医療事故調査委員会要項（平成28年2月制定） ④ 医療事故発生時の対応方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ インシデント・アクシデント，不具合事象（合併症）報告運用規則（平成12年5月制定，令和元年8月改定） ・ インシデント・アクシデント，不具合事象（合併症）報告ルート（平成12月5月制定，令和元年8月改定） ・ 重大医療事故報告ルートフローチャート（平成12年8月制定，平成27年8月改定） ⑤ 患者からの相談に応じる体制 <ul style="list-style-type: none"> ・ 患者相談窓口運用要綱（平成15年10月制定，平成25年8月改定） ・ 患者相談窓口フローチャート（平成15年10月制定，平成25年8月改定） ⑥ 患者への適正な説明・内部通報窓口の設置 <ul style="list-style-type: none"> ・ インフォームドコンセントに関する内規（平成28年9月制定，令和4年6月改定） ・ インフォームドコンセントマニュアル（平成28年9月制定，令和元年2月改定，令和4年7月改定） ・ 内部通報者保護に関する内規（平成28年9月制定） 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（有・無） ・ 開催状況：年12回 ・ 活動の主な内容：副病院長（医療安全管理責任者）を委員長とする医療安全管理委員会を毎月1回定例で開催している。医療安全管理委員会は，医療安全管理者，看護部門，中央部門（薬剤部，中央放射線部，臨床検査部），事務部門等から選出された委員（セーフティマネジャー等）により構成されている。本院における医療に係る安全管理の根幹を決定し，医療事故防止対策の検討及び医療安全の推進を図っている。また，年間2回の医療安全講習会の企画・運営を行っている。同委員会は薬剤管理委員会と医療機器・放射線機器管理委員会，医療放射線安全管理委員会を統括し，連携を図ると共に下部組織として各部門の主任以上をセーフティマネジャーに任命し，各部署における医療安全対策を推進している。 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年2回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： 	

医療安全管理指針に基づき、安全管理体制確保と医療事故を未然に防ぐために以下の研修を実施

- ① 令和3年6月
第1回医療安全講習会 「2020年度インシデントレポート報告と現状からの注意喚起」「薬剤師による疑義照会と代行入力」他
- ② 令和3年11月
第2回医療安全講習会 「日本大学医学部附属板橋病院の理念・基本方針」「患者の権利」他

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - ① インシデント・アクシデントレポートにより、速やかに報告を行う体制を整備している。
 - ② 平成18年度からオンライン化を図り、平成26年度から電子カルテの導入によるシステムの最適化を図った。
 - ③ 提出されたインシデントレポート、外部のレポート、現場からの問題提起、インターネットや研修会等で事例を収集・把握し情報を得ている。収集した情報を踏まえて医療安全管理室は報告された内容や事例によっては当事者立会いによる現場での聞き取りや状況確認を行い、検証を要する事故事例については、セーフティマネジャー事例検討会に付託し詳細な原因究明分析を行い改善策の検討を行っている。
 - ④ 24時間いつでも提出可能にするために、医療安全管理室にポストを設置している。
 - ⑤ 医療安全管理室員の連携（情報共有）を図るために、毎週1回医療安全管理室連絡会議を開催し、情報の共有化を図り、分析・予防対策等の検討を行っている。
 - ⑥ 専従医療安全管理者等が病棟ラウンドを行い、報告内容の確認及びセーフティマネジャーとの連携を図っている。
 - ⑦ 「ヒヤリ・ハット通信」「医療安全注意報」等の発行時には、回覧を確認したことを証明してもらうため、確認表を添付し、そこにサインさせ、医療安全管理室で確認表を収集・管理している。
 - ⑧ 可及的速やかに検討が必要な事例が発生した場合、当該部署の医師や看護師ならびにそれに関連する部署の者を招聘し「特別症例検討委員会」を開催し、事例の分析、再発防止策を検討・実施している。
 - ⑨ 医療安全管理室で全死亡症例を把握している。電子カルテ等の内容を把握し、医療安全管理室連絡会議や医療安全管理委員会で検証を行っている。重大事例や早急に改善策が必要となる事例については、該当事例について、特別症例検討委員会で検討を行い、改善策を立案する。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： 基本理念，基本方針，専従者の配置，感染防止対策委員会の設置，鋭利な器材の取り扱い，職員の研修，感染症発生時の報告，感染症発生時の対策，閲覧について，連絡先，その他 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： ・ 届け出感染症および指定感染症(新型コロナウイルス感染症など)の発生状況の把握と報告 ・ 針刺し切創皮膚粘膜曝露件数の報告 ・ 抗MRSA薬，広域抗菌薬の使用状況および適正使用の報告 ・ 菌検出状況の報告 ・ 感染防止対策講習会の企画・開催および参加状況の把握 ・ 感染防止対策マニュアルの改訂 ・ 標準予防策の手指衛生行動の評価 ・ 感染防止対策加算に関わる活動報告 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： ① 2021年度前期（2021年6月10日から7月31日）全職員対象 <ul style="list-style-type: none"> ・ （新型コロナウイルス感染症に関する）生活様式について ・ 手指衛生 ・ 経口抗菌薬について ② 2021年度後期（2021年11月11日から12月31日）全職員対象 <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染対策全般 ・ 血液培養について ・ 真菌感染症 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 （ 有・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： ① 感染症発生時の報告体制 <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症発生時，細菌検査室から主治医への報告と同時に感染予防対策室の専従者へ報告があり，専従者は現場へ直ちに向かい，情報の共有・感染対策の強化を行っている。 ・ 感染症法による感染症の届出は電子カルテに収載し，速やかに報告書の作成・提出ができるようにしている。 ② ICT，感染予防対策室によるAST活動，院内ラウンド <ul style="list-style-type: none"> ・ ICTはメンバーを全病棟・外来・各部門に配置した。 ・ ICTは自部署を中心とした院内ラウンドを実施している。 ・ 感染予防対策室専従者は院内横断的にラウンドを実施している。 ・ 医師，看護師，薬剤師，臨床検査技師による抗菌薬適正使用検討会を週3回実施し，適正使用の向上，耐性菌感染症対策の検討を行っている。 ・ 病棟やステーション，汚物室などの環境や標準予防策，経路別予防策の遵守状況をICTラウンドで検証している。 ③ 手指衛生の量的・質的向上に向けた取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・ 病棟や外来，薬剤部，検査部，リハビリテーション部，放射線部，臨床工学部の各部署において，手指衛生質評価を毎月実施している。 ・ 手指消毒剤払い出し量および各部署での使用量実績に基づく使用量サーベイランスを実施している。 ・ 質評価と使用量サーベイランスの結果は手指衛生遵守の向上のために各現場にフィードバックしている。 ④ 院内感染サーベイランス 	

- ・カテーテル関連尿路感染症, 中心静脈カテーテル関連血流感染症, 人工呼吸器関連肺炎, 手術部位感染の各種サーベイランスを実施している。
- ・通年にわたり、耐性菌, 新型コロナウイルス感染症, インフルエンザ, 感染性胃腸炎のサーベイランスを実施している。

⑤ 地域連携

- ・地域の医療施設, 地域医師会と定期的に連携カンファレンスを実施している。

⑥ その他

- ・清掃業者, 施設課の定期カンファレンスに専従者が参加し, さらに清掃ラウンドを実施, 病院環境の清潔維持に繋げている。
- ・新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い, 院内の幅広い部署のメンバーが出席する感染防止対策会議を毎週1回開催している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 2021/6：「薬剤師による疑義照会と代行入力」 2022/11：「持参薬報告の手順と持参薬のインシデントを防ぐために」 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (有・無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 「医療安全管理委員会」は副病院長（医療安全管理責任者）を委員長として、医療安全管理者診療部門、看護部門、中央部門（薬剤部、中央放射線部、臨床検査部）、事務部門等から選出された委員（セーフティマネジャー等）により構成されている。定例で毎月1回委員会を開催し、当病院における医療に係る安全管理の根幹を決定し、医療事故防止対策の検討及び医療安全の推進を図っている。また、年間2回の医療安全講習会の企画・運営を行っている。 同委員会は薬剤管理委員会と医療機器・放射線機器管理委員会を統括し、連携を図ると共に下部組織として各部門の主任以上をセーフティマネジャーに任命し、各部署において医療安全対策を推進している。 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：2021年度事例なし ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> ① インシデント・アクシデントレポートにより、速やかに報告を行う体制を整備している。平成18年度からオンライン化を図り、平成26年度から電子カルテの導入によるシステムの最適化を図った。 ② 提出されたインシデントレポート、外部のレポート、現場からの問題提起、インターネットやメディアックスなどからの事例を収集・把握し情報を得ている。収集した情報を踏まえて医療安全管理室は報告された内容や事例によっては当事者立会いによる現場での聞き取りや状況確認を行い、検証を要する事故事例については、セーフティマネジャー事例検討会に付託し詳細な原因究明分析を行い改善策の検討を行っている。 ③ 24時間いつでも提出可能にするために、医療安全管理室にポストを設置している。 ④ 医療安全管理室員の連携（情報共有）を図るために、毎週1回医療安全管理室連絡会議を開催し、情報の共有化を図り、分析・予防対策等の検討を行っている。 ⑤ 専従医療安全管理者等が病棟ラウンドを行い、報告内容の確認及びセーフティマネジャーとの連携を図っている。 ⑥ 「ヒヤリ・ハット通信」「医療安全注意報」等の発行時には、回覧を確認したことを証明してもらうため、確認表を添付し、そこにサインさせ、医療安全管理室で確認表を収集・管理している。 ⑦ 可及的速やかに検討が必要な事例が発生した場合、当該部署の医師や看護師ならびにそれに関連する部署の者を招聘し「特別症例検討委員会」を開催し、今後再発防止策を検討・実施している。 ⑧ 医療安全管理室で全死亡症例を把握している。電子カルテ等の内容を把握し、医療安全管理室連絡会議や医療安全管理委員会で検証を行っている。重大事例や早急に改善策が必要となる事例については、該当事例について、特別症例検討委員会で検討を行い、改善策を立案する。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 34 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 医療機器の有用性・安全性に関する事項 ② 医療機器の使用方法に関する事項 ③ 医療機器の保守点検に関する事項 ④ 医療機器の不具合が発生した場合の対応に関する事項 ⑤ 医療機器の使用に関して特に法令上遵守すべき事項 ⑥ 医療機器の使用方法に関わる放射線治療のリスクマネジメント ⑦ 医療機器の非常時の処置方法 ⑧ 新しい医療機器の導入時の研修 ⑨ インシデント発生時の再発予防に関する事項など <p>・ 研修の実施方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> ① e-ラーニング ② 集合教育 ③ 実習研修 <p>効果測定については、確認テストを行っている。e-ラーニングでの研修では、確認テストで100%正解しなければ受講修了とならない。確認テスト実施後、正誤とともに解説が表示される。集合教育や実習研修に関しては、研修終了後確認テストを行い、間違えた個所についてはその場で解説を行っている。未受講者については、再度の受講の要請を行う。また、資料配布などを行い、アンケートとともに確認テストを行い、終了後テストの解説を配布するなどとした。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：医療機器ごとに保守点検の計画・実施表を作成し、3か月毎に見直し、医療機器・放射線機器委員会にて承認を得ている。機器ごとの保守点検については、添付文書、取扱説明書等に記載してある、メーカー推奨の点検方法を採用し、点検している。また、メーカーが行う保守点検については、終了後、使用前点検を再度行い、正常作動を確認している。</p> <p>○医療機器</p> <p>定期点検：人工心肺装置、補助循環装置、人工呼吸器、保育器、除細動器、血液浄化装置、輸液ポンプなどの一部の機器については、臨床工学技士が、マニュアルに沿って点検を行う。その他の補助循環装置や電気メス、麻酔器などについては、メーカーに依頼している。</p> <p>日常点検：始業点検・使用中・使用后・修理後の点検の実施、および記録を臨床工学技士が行っている。医療機器ごとにマニュアルに沿った形で、始業点検を行っている。特に生命維持管理装置（人工呼吸器、補助循環装置、血液浄化装置）の使用中心点検は、チェックリスト等を用い、機器の状態、患者の状況、指示通り治療が行われているかなどを、臨床工学技士が巡視し、チェックリストなどを用いて確認している</p> <p>○放射線機器</p> <p>定期点検：各機器のマニュアルに沿った期間・内容で行っている。 高エネルギー放射線発生装置：4回/年実施、メーカーに依頼 診療用放射線照射装置（RALS装置）：2回/年実施、メーカーに依頼 CTエックス線装置：機種により、2回/年・4回/年実施、メーカーに依頼 MRI装置：機種により、2回/年・4回/年実施、メーカーに依頼</p>	

日常点検；始業点検・使用中・使用後・修理後の点検の実施，および記録を診療放射線技師が行っている。医療機器ごとにマニュアルに沿った形で，始業点検・終業点検を行っている。高エネルギー放射線発生装置であるライナック装置の始業点検については，簡易型線量計を用いて出力測定を行い，各エネルギーの出力誤差が許容範囲内であるかチェックを行っている。

④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集
その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)
- ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば) : なし

・ その他の改善のための方策の主な内容 :

○未承認機器について

各部署に常駐するスタッフが，医師と連携を取りながら治療を行っているため，未承認の医療機器などを使用する際には，チームメンバーであるスタッフへ情報提供が行われる。院外から借用するような機器については，原則，資材課に許可を得ることになっており，院内の委員会へ情報が挙げられる。また，未承認等の医療機器の使用については，臨床研究センターへ相談し，そこで委員会を立ち上げて，検討することが院内の規則となっており，医療安全管理室から周知されている。

○それ以外の医療機器について

- ① PMDAやメーカーから情報を得ている。
- ② 得た情報は，部内，また医療機器・放射線機器管理委員会にて報告し，必要な場合には医療安全管理委員会への報告を行っている。
- ③ 医療機器の使用方法等に関する注意や情報伝達は，臨床工学技士・診療放射線技師より行っている。さらに重要度があがる場合や，インシデントが関係しているような，全員に確実な周知を行うべきものについては，医療安全管理室専従スタッフと相談し，医療安全管理室より「医療安全注意報」や「CEのお知らせ」として周知している。
- ④ 情報の周知には，電子カルテ，文書の配布，研修会などを利用している。
- ⑤ メーカーからの安全使用に関する情報通知内容を関係職員に回覧し，情報の共有化を図っている。また，安全情報をファイルし，適宜閲覧可能としている。
- ⑥ メーカーからの改修・注意事項に則り適宜改修を行っている。
- ⑦ 治療計画装置の安全使用を図るために，保守契約項目にソフトのバージョンアップを含め常に最新のソフトを使用している。

○前年度実績

- ① 医療機器・放射線機器管理委員会にて，医療機器・放射線機器に関連するインシデントについて226件の事例報告を行い，原因検索や対応の検討を行った。
- ② シリンジポンプの閉塞アラーム発生時のアラーム対応について，内圧緩和が発生することでアラーム対応が適切に実施されない事例が発生したため，紙面による注意喚起と医療機器研修での研修を実施した。
- ③ 経腸栄養に関する相互誤接続防止コネクタを導入し，運用を開始した。全スタッフに周知し，また外来患者向けにホームページやポスターにて周知した。
- ④ ネーザルハイフロー使用時の回路離断，輸液ポンプ使用時の手順，フローサインの取り扱いの変更，在宅用人工呼吸器の変更，停電時のネーザルハイフローの使用などについて紙面にて周知し注意喚起した。
- ⑤ 医療機器の一元管理について医療機器放射線機器管理委員会にて取りまとめ，一元管理に伴う保守管理規定・管理フローなどを作成し実施開始とした。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 責任者の資格 (医師・歯科医師) ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 ・ 平成28年4月1日付け副病院長 (管理担当) を医療安全管理責任者として配置し、医療安全管理室長を兼務している。医療安全管理責任者は病院の医療安全管理全般を統括し、医療安全管理委員会の委員長を務めると共に、薬剤管理委員会 (委員長: 医薬品安全管理責任者) 及び医療機器・放射線機器管理委員会 (委員長: 医療機器安全管理責任者) から各委員会で討議された内容についての報告を受け、適宜監督・指導を行い、適正な医療安全管理体制を構築している。 	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (13名) ・ 無 内専従6名
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 薬剤師が月1回以上、医薬品に関する巡視を行い、薬剤管理委員会及び医薬品安全管理責任者に報告している。また薬剤管理委員会の委員が病院各部門をラウンドし、手順書に沿ったチェックを行い、改善が必要であれば指摘する。指摘した場合は、近日中に改善されているか再度確認業務を行う。 薬剤管理委員及び医薬品安全管理責任者は薬剤関係のインシデントレポートを確認し、未投薬等の原因を検証し必要な場合、手順書改訂など薬剤管理委員会を通して検討する。 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 添付文書以外の医薬品に関する適応外使用の適否は、薬剤部 (医薬品情報室) が薬学的判断を行い医薬品安全管理責任者に報告し最終的に病院長に報告している。また当院で使用したことのない医薬品で承認または認証を受けていないものに関しては、未承認新規医薬品等を用いた医療の提供に関する業務マニュアルに従い、未承認新規医薬品担当部門にて検討し、病院長に報告している。 ・ 担当者の指名の有無 (有・無) ・ 担当者の所属・職種: (所属: 脳神経外科, 職種 医師) (所属: 総合科, 職種 医師) (所属: 呼吸器内科, 職種 医師) (所属: 医療安全管理室, 職種 薬剤師) (所属: 薬剤部, 職種 薬剤師) (所属: 臨床研究センター, 職種 看護師) (所属: 臨床研究センター, 職種 薬剤師) 	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無) ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容: IC 責任者が確認の結果、適切でない事例を認めた場合は、マニュアルに従い実施するよう指導を行うとともに、該当事例を通じて病院各部署に注意喚起を行い、適宜、院内通知等により、適正な説明の実施と説明を実施した際の様子を適正に記載するよう、啓蒙に努めている。 	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容: 診療録責任者が診療録等の記載内容が十分でない事例を認めた際は、診療録記載に関するマニュアルに基づき記載するよう必要な指導を行うとともに、該当事例を通じて病院各部署に注意喚起を行い、適正な記載の実施について教育している。 	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員: 専従 (7) 名、専任 () 名、兼任 (10) 名 うち医師: 専従 (1) 名、専任 () 名、兼任 (4) 名 	

うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名
 うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（2）名
 （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

- ① 医療安全に係る関係部署への連絡調整
- ② 医療事故等の原因究明の実施確認及び指導
- ③ 医療事故発生時における、患者・家族への説明等の対応状況の確認及び指導
- ④ 医療事故等に関する診療録・看護記録等の記載の確認及び指導
- ⑤ 医療安全研修会の運営、実施内容の記録
- ⑥ 全死亡患者報告受領及び医療安全に係る診療状況調査・検証と管理者への報告
- ⑦ 医療事故防止マニュアルの職員への周知及び評価
- ⑧ 患者相談窓口の相談情報の把握及び医療安全対策への活用
- ⑨ 医療安全管理委員会の資料・議事録の作成及び保存、その他医療安全管理委員会の庶務に関すること
- ⑩ ヒヤリ・ハット通信及び医療安全注意報の発行、職員への周知及び評価
- ⑪ その他医療安全対策の推進
- ⑫ 診療状況（コードブルー発生件数、RRS発生件数、内視鏡治療合併症発生率、術後死亡（30日以内）件数、手術における血栓予防対策、疑義照会件数、CVC合併症発生件数）のモニタリング

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（5件）、及び許可件数（5件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
 高難度新規医療技術を用いた医療の提供に関する業務マニュアル」を適宜見直し、改訂する。担当部門長は「高難度新規医療技術評価委員会」を開催し、その適否を評価するとともに、当該高難度新規医療技術が適正に提供されていることを、継続的に確認する。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（0件）、及び許可件数（0件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
 「未承認新規医薬品等を用いた医療の提供に関する業務マニュアル」を適宜見直し、改訂する。担当部門長は「未承認新規医薬品評価委員会」、「未承認新規高度管理医療機器評価委員会」を開催し、その適否を評価するとともに、当該未承認医薬品、未承認高度管理医療機器が適正に提供されていることを、継続的に確認する。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年911件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年268件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 死亡診断書の有無、部署、報告者、報告日時、患者病歴番号の報告を義務化し、医療安全管理者や担当医師によるカルテ記載の確認を行う。その結果を医療安全管理室連絡会議で報告の上、検証を行い、医療安全管理委員会で検証結果を報告の上、重大事例や早急に改善が必要となる事例においては、当該事例について、特別症例検討委員会で検討を行い、改善策を立案する。

⑩	<p>他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の特定機能病院等への立入り（<input checked="" type="checkbox"/>（病院名：産業医科大学病院）・無） ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（<input checked="" type="checkbox"/>（病院名：産業医科大学病院）・無） ・技術的助言の実施状況 特になし
⑪	<p>当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体制の確保状況 <ul style="list-style-type: none"> ① 患者相談窓口の設置 ② 相談により患者や家族が不利益を受けないような適正な配慮 <ul style="list-style-type: none"> ・相談患者等には不利益が無いことを十分に説明し、面談室で相談に応じることで相談時のプライバシーを確保している。 ・当該患者の訴えを丁寧に聴取し解決策をプランニングする。

⑫	<p>職員研修の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施状況 <p>令和3年6月10日-令和3年7月31日（e-ラーニング研修）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 2020年度インシデントレポート報告と現状からの注意喚起 ② 薬剤師による疑義照会と代行入力 ③ MRI検査の安全性について ④ 個人情報保護と守秘義務について <p>令和3年11月11日-令和3年12月31日（e-ラーニング研修）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 日本大学医学部附属板橋病院の理念・基本方針 ② 患者の権利 ③ インフォームドコンセントを行う上での注意点 ④ 当院における死亡診断時の段階的検証 ⑤ 皮下埋め込み型ポートの管理の実際 ⑥ 持参薬報告の手順と持参薬インシデントを防ぐために ⑦ MRI検査室における着脱可能な医療機器に対する注意 ⑧ 酸素ボンベの残量計算と取り扱い確認事項について
---	--

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬	<p>管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施状況 <p>管理者（病院長） 開催日：令和3年12月15日（水） 研修名：2021年度特定機能病院管理者研修（初回研修）</p> <p>医療安全管理責任者（副病院長） 開催日：令和4年1月25日（火） 研修名：2021年度特定機能病院管理者研修（継続研修）</p> <p>医薬品安全管理責任者（薬剤部技術長） 開催日：令和4年2月14日（月） 研修名：特定機能病院管理者研修（継続研修）</p> <p>医療機器安全管理責任者（臨床工学技士室技術長補佐） 開催日：令和3年12月8日（水） 研修名：2021年度特定機能病院管理者研修（継続研修）</p>
---	---

（注）前年度の実績を記載すること

⑭	<p>医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第三者による評価の受審状況 <p>公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「一般病院2」の認定を受けている。 （認定期間：2017年10月13日～2022年10月12日）</p> <p>なお、令和4年10月に同機構が実施する「一般病院3」による評価を受審する予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況
---	--

「一般病院2」認定証を院内に掲示しており、審査結果報告書は管理事務室内に備え置き、一般の供覧を可能としている。

- ・ 評価を踏まえ講じた措置
 - ・ 診療記録の質的監査の実施
 - ・ 救急カート定期点検の回数増加、配置場所の見直し
 - ・ 診療情報管理士育成のための支援

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> ① 日本国の医師免許を有していること ② 心身ともに健康であること ③ 豊富な診療経験を有していること ④ 医療の安全の確保のため、医療安全業務の経験や患者安全を第一に考える姿勢及び指導力を有していること ⑤ 適正な管理運営を図るため、組織管理経験やガバナンスに必要な資質及び指導力を有していること ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無) ・ 公表の方法 日本大学医学部附属板橋病院のホームページ上に公表している。

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無) ・ 公表の方法 日本大学医学部附属板橋病院ホームページ上に公表している。 	

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
高山 忠利	副学長	○	委員会設置要項第4条の①の(1)による選任	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
沼子 博	人事部長		委員会設置要項第4条の①の(5)により人事取扱業務の統括者として選任	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
後藤田卓二	医学部長		委員会設置要項第4条の①の(2)による選任	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
岡安 英昭	医学部事務局長		委員会設置要項第4条の①の(3)による選任	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
野本 浩嗣	板橋病院事務長		委員会設置要項第4条の①の(4)	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無

			による選任	
渡邊俊太郎	翼法律事務所		委員会設置要項第4条の①の(6)により医療安全に精通した法律家として選任	有・無
田邊 一成	東京女子医科大学 病院		委員会設置要項第4条の①の(6)により医療管理及び医療安全に精通した医師として選任	有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 <ul style="list-style-type: none"> ① 厚生労働省令に定める特定機能病院としての管理及び運営に関する重要事項 ② その他病院の管理運営に関する事項 ③ 本院における運営の方針，中期計画，予算及び決算，その他の運営に関する重要事項のほか高度医療を実践するための審議を行う。 ・審議の概要の従業者への周知状況 諸会議，委員会を通じて周知している。 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無） ・公表の方法 ・外部有識者からの意見聴取の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無） 	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
【執行部会】			
高橋 悟	○	医師	病院長
鈴木 孝浩		医師	副病院長
中山 智祥		医師	副病院長
山上 聡		医師	副病院長
縣 美恵子		看護師	副病院長
安中 太		事務	事務長
【部長会】			
高橋 悟	○	医師	病院長
高山 忠輝		医師	総合内科部長
権 寧博		医師	呼吸器内科部長
中村 英樹		医師	リウマチ・膠原病内科部長
八田 善弘		医師	血液・腫瘍内科部長
阿部 雅紀		医師	腎臓・高血圧・内分泌内科
森山 光彦		医師	消化器・肝臓内科部長
石原 寿光		医師	糖尿病・代謝内科部長

中嶋 秀人		医師	脳神経内科部長
奥村 恭男		医師	循環器内科部長
丸岡秀一郎		医師	心療内科部長
鈴木 正泰		医師	精神神経科部長
森岡 一朗		医師	小児科・新生児科部長
岡村 行泰		医師	消化器外科部長
田中 正史		医師	心臓血管外科部長
櫻井 裕幸		医師	呼吸器外科部長
越永 従道		医師	小児外科部長
多田敬一郎		医師	乳腺内分泌外科部長
副島 一孝		医師	形成外科部長
吉野 篤緒		医師	脳神経外科部長
中西 一義		医師	整形外科部長
新見 昌央		医師	リハビリテーション科部長
川名 敬		医師	産科・婦人科部長
山上 聡		医師	眼科部長
大島 猛史		医師	耳鼻咽喉・頭頸部外科部長
岡田 真広		医師	放射線診断科, 放射線治療科部長
鈴木 孝浩		医師	麻酔科部長
中山 智祥		医師	臨床検査医学科部長
増田しのぶ		医師	病理診断科部長
木下 浩作		医師	救命救急センター一部長
陳 和夫		医師	睡眠センター一部長
北野 尚孝		歯科医師	歯科口腔外科部長
縣 美恵子		看護師	看護部長
大塚 進		薬剤師	薬剤部長
五十嵐崇浩		医師	医療安全管理室副室長
藤田 英樹		医師	臨床研究センター一長
安中 太		事務	事務長
田村 剛史		事務	庶務課長
川原 浩貴		事務	医事課長兼病歴課長
石橋 慶一		事務	資材課長
菰澤 雅幸		事務	会計課長
藤井 教智		事務	医療情報課長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ ・無 ）
- ・ 公表の方法
日本大学医学部附属板橋病院のホームページ上に公表している。
- ・ 規程の主な内容
本学の教育・研究及び診療・管理に関する事項を管掌する。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
- ・ 副院長の4名は運営上重要分野である診療・医療連携、経営、医療安全・教育、多職種連携の各分野をサポートする。
- ・ 病院長補佐の4名は喫緊の重要施策であるワクチン・働き方改革、病院機能評価受審、手術室運営、コロナ病棟・ERの各施策をサポートする。
- ・ 事務長、看護部長、薬剤部長は事業計画の立案や計画について、各専門分野の見地から具体的施策の具申を行う。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
病院幹部に医療管理・経営に精通した経営学修士（MBA）、医療経営士3級（日本医療実践協会）取得者を配置している。役職ごとに所属団体である全国医学部長病院長会議、日本私立医科大学協会病院事務長会議総会、同東ブロック会、病院部会医療安全・感染対策委員会に出席して研鑽を積んでいる。
また、特定機能病院管理者研修、医師の働き方改革セミナー、医療界と法曹界の相互理解のためのシンポジウム、医療法務セミナー等に出席して適正な病院経営に努めている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容： <p>学校法人日本大学におけるガバナンス強化を目的に板橋病院における医療安全管理体制及び業務遂行に関する監査を目的として「日本大学医学部附属板橋病院医療安全監査委員会設置要項」に基づく医療安全監査委員会を設置する。当該委員会は板橋病院の医療安全管理，感染防止，医薬品安全管理，医療機器安全管理等に係る体制整備及び業務遂行状況を監査し，監査結果は開設者に報告及びホームページを通じて外部に公表する。</p> ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ） ・ 委員名簿の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ） ・ 委員の選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ） ・ 公表の方法： <p>日本大学医学部附属板橋病院ホームページ上に公表している。</p> 					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
寺崎 仁	元東京女子医科大学医療安全科教授・医師	○	大学教授として医療安全に関する豊富な実務経験と識見を持ち合わせているため	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
各務 武希	光和総合法律事務所・弁護士		法曹界での豊富な実績を有しており，法律に関する専門知識とコンプライアンス分野の識見を持ち合わせているため	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
柴田 誠治	板橋区名士・医療を受ける者		医療を受ける者としての客観性	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2

	代表		と社会性を持ち合わせているため		
庄司 義男	元関東信越厚生局医療課長		豊富な業務経験を踏まえた医療に係る安全管理に関する識見を持ち合わせているため	<input checked="" type="checkbox"/> ・無	3
西成田 進	元本病院医療安全管理室兼任医師		総合病院病院長の経験と本病院医療安全管理室兼任医師の業務経験を持ち合わせているため	<input checked="" type="checkbox"/> ・無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
学校法人日本大学寄付行為に基づき監事監査及び公認会計士又は監査法人による財務監査を実施している。また、日本大学内部監査規程に基づき、監事監査及び財務監査から独立した内部監査を行う体制を整備している。
今年度、法人組織において、監査を所管する事務組織を大幅に刷新し、監事監査及び内部監査の充実並びに法人のコンプライアンス（法令遵守）を図る目的で、令和4年6月1日付けで、それぞれ、監事監査事務局とコンプライアンス事務局を設置した。
- ・ 専門部署の設置の有無（ ・ 無 ）
- ・ 内部規程の整備の有無（ ・ 無 ）
- ・ 内部規程の公表の有無（ ・ 無 ）
- ・ 公表の方法
日本大学医学部附属板橋病院のホームページ上に公表している。

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 学校法人日本大学に病院の健全な経営を図るため、日本大学病院経営会議を設置し、病院経営に関する重要な事項や病院の組織及び人事に関する重要な事項、その他病院に関する重要な事項を審議し、病院の業務を監督する。 ・ 会議体の実施状況（年 11 回） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="checkbox"/>・無）（年 5 回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無） ・ 公表の方法 日本大学医学部附属板橋病院のホームページ上に公表している。 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：日本大学病院経営会議			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
林 真理子	理事長	○	有・無
酒井 健夫	学 長		有・無
武井 正美	副学長		有・無
和田 秀樹	常務理事		有・無
大熊 智之	総務部長		有・無
友近 英展	財務部長		有・無
飯塚 和一郎	人事部次長兼人事部長職務代行		有・無
正田 純一	管財部長		有・無
木下 浩作	医学部長		<input checked="" type="checkbox"/> ・無
本田 和也	歯学部長		有・無
小方 頼昌	松戸歯学部長		有・無
柳島 力	医学部事務局長		<input checked="" type="checkbox"/> ・無
天野 康雄	日本大学病院病院長		有・無
高橋 錦吾	日本大学病院事務長		有・無
高橋 悟	板橋病院病院長		<input checked="" type="checkbox"/> ・無
野本 浩嗣	板橋病院事務長		<input checked="" type="checkbox"/> ・無
小林 清	常任監事		有・無
松本 年生	病院経営指導管理オフィス特任次長		<input checked="" type="checkbox"/> ・無
吉村 利明	病院経営指導管理オフィス特任事務長兼特任課長		<input checked="" type="checkbox"/> ・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 電子カルテ, 講習会, 医療安全ポケットマニュアル, リーフレット, ホームページ等で周知している。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>医療連携施設として登録している医療機関・施設及び近隣医療機関へ当病院の取り組みや各診療科における最新医療情報・特徴・特色・診療実績等を掲載したメールで情報発信を行っている。</p> <p>なお、ホームページにおいても情報発信を行っている。</p> <p>また、連携施設として登録している医療機関・施設及び近隣医療機関向けの連携セミナーや意見交換会、地域住民向けのセミナーを定期的に開催して、当病院からの情報発信を行っている。</p> <p>その他、医師専用サイトを利用し、近隣医療機関の医師に向けて各診療科の取り組みを情報発信している。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>外来・入院問わず、疾患に応じて主科から他科へのコンサルテーションを行い、兼科によって複数の診療科が連携して治療対応に当たる体制を構築している。</p> <p>また、疾患によっては複数診療科でのカンファレンス等により、患者にとって最良な治療方針を検討している。</p>	